

閱 覧 設 計 書

工 事 名	橋梁補修工事（矢板駅構内跨線人道橋）
施行箇所	矢板市扇町一丁目地内
工 期	令和8年3月31日まで

入 札 日	令和7年8月28日	時間については、入札通知書により確認のこと
場 所	矢板市生涯学習館 2階 研修室（1）	
閲覧期間	令和7年 月 日 ~ 令和7年8月27日	
担 当	建設課	

そ の 他	
-------	--

令和7年度	設計 の 理由	矢板市橋梁長寿命化修繕計画に基づき本工事を要する。	工期	R8.3.31 限り	施工 方法	条件付 一般競争 入札	市長
国・起債・市							

<h1>実施設計書</h1> <p>橋梁補修工事（矢板駅構内跨線人道橋） 矢板市扇町一丁目地内 設計概要 施工延長 L=26.0m</p>							市長
							副市長

橋梁補修							課長
排水施設工	排水管撤去設置工	N= 4 箇所					
階段補修工	紫外線硬化型シート設置工	A= 10 m2					
橋梁塗装工	超遮塩性塩害対策塗装工	A=825 m2					
支承補修工	断面修復工	V=0.2 m3					
仮設工	枠組足場	A=451 掛m2					
	吊足場	A=159 m2					
							G L
							設計者

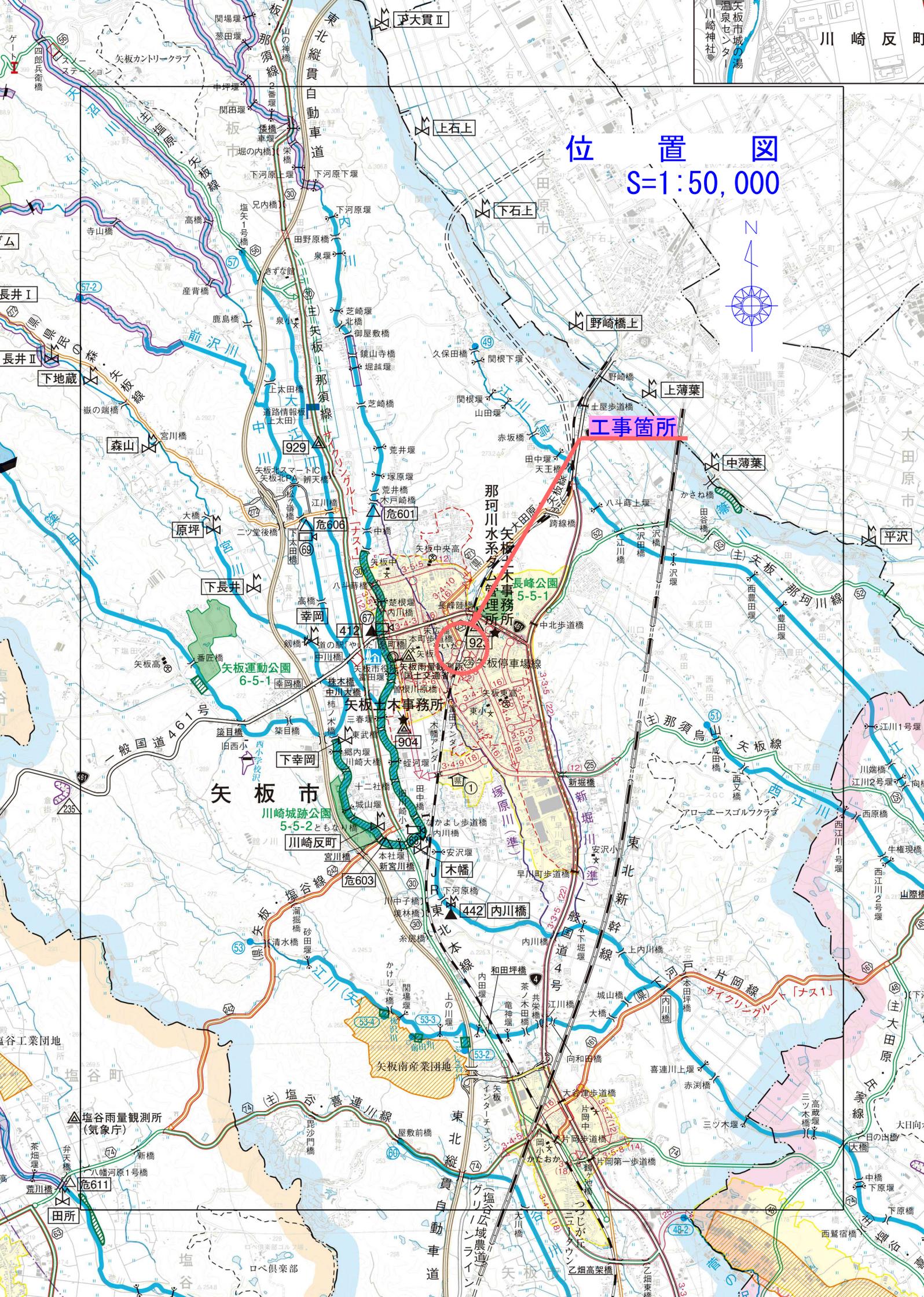
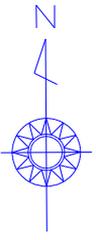
	設計書用紙（甲）	栃木県矢板市
---	----------	--------

請負工事金額	金	円
	内 訳	
工事価格	金	円
消費税相当額	金	円

予算額		増減額	予算額 に対する 増減額	理由
査定額				
実施 前回	設計額			
	請負額			
今回 変更	設計額			
	請負率			

位置図

S=1:50,000



工事箇所

矢板市

那珂川水系

矢板土木事務所

管理事務所

長峰公園

5-5-1

矢板土木事務所

904

川崎反町

川崎跡公園

5-5-2

施工条件書

(●:適用する ○:適用しない)

項目	事 項
工程関係	<ul style="list-style-type: none"> ● 1 他の工事の開始又は完了により、施工時期、全体工期等に影響がある。 予定近接工事名：東北本線矢板駅構内跨線人道橋補修工事(JR施工) 上記工事の工期：令和7年8月～令和8年3月 ○ 2 関係機関等との協議の結果、次のとおり条件が付され、当該工事の工程に影響がある。又は、関係機関等との協議に未成立のものがある。 関係機関等： 影響範囲： 施工時期： 令和 年 月 日 ～ 令和 年 月 日 施工時間： 施工方法： 協議成立見込： その他： ○ 3 本工事区間内には埋蔵文化財(または○○(県市)文化財)がある。そのため、工事着手前に○○(県市)○○課との立会による確認が必要である。 なお、工事中に遺構又は遺物等を発見した場合は、直ちに工事を中止し、速やかに監督職員に報告すること。 ○ 4 本工事の工期は出水期間(6月1日から10月31日)を含んでいる 出水期間中は河川区域における工事を行ってはならないが、以下に示す工種等(以下に掲げる工種のうち●を記したもの)においてはこの限りではない。 なお、この場合において、別途特記仕様書に記載する「出水期間中の現場管理及び施工」に係る事項を遵守すること。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 準備・後片付け(直接工事で計上するもの以外を対象とする。既設堤防の治水上の安全を下げないように留意すること) ○ 河道掘削・浚渫工(河道の状況や河川特性を十分に留意すること) ○ 天端舗装工(既設堤防の治水上の安全を下げないように留意すること) ○ 工事用道路工・管理用道路工(既設堤防の治水上の安全を下げないように留意すること) ○ 土砂運搬工(河道内の仮置土は出水時に流下阻害とならないこと) ○ 根固め(乱積み)工(河道内において製作している根固は出水時に流下阻害とならないこと(型枠等含む)) ○ その他監督職員が承諾した工種 ○ 6 出水期間中の工事の全部又は一部の施工の一時中止について 出水期間については、受発注者で協議の上、工事の全部又は一部の施工を一時中止する手続きを行うことができる。また、出水期間中に工事の全部又は一部の施工を一時中止した場合において、契約工期の終期日の変更は行わない。 但し受注者の責に帰すことが出来ない事由による工期の延長等についてはこの限りではない。 ○ 7 その他 内容
用地関係	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1 工事用地等に未処理部分があるので、監督職員と協議の上、立ち入り等を行うこと。 場 所、範 囲： 処理見込み時期： ● 2 本工事において、受注者が施工上必要とする営繕用地(受注者の現場事務所、休憩所、資材置場、駐車場等)は、受注者自らが準備し、確保すること。 また、その用地選定にあたっては原則民有地を確保することとし、民有地の確保が困難で、やむを得ず官有地に設置等を計画する場合は、事前に監督職員と協議の上、占用申請等必要な手続きを行うこと。 ○ 3 仮設道路、仮設ヤード等の指定がある。 官地民地の別： 面 積： 期 間： 令和 ()年 月 日 ～ 令和 ()年 月 日 役 務 費 の 有 無： ○ 4 測量杭、境界杭等は、工事車両、建設機械等で動かさぬよう確実に養生すること。 ○ 5 その他 内容

施工条件書

(●:適用する ○:適用しない)

項目	事項																																						
公害・環境対策関係	<p>○ 1 施工方法等において、公害防止の為の制限がある。 対象工種： 対象箇所： 制限内容：</p> <p>○ 2 騒音・振動等の測定を指定する箇所がある。 対象工種： 対象箇所： 制限内容：</p> <p>○ 3 地元対策上や法改正等により規制処置が必要となった場合は、監督職員に報告し協議する。 内容：</p> <p>○ 4 河川土工等で、河川を汚濁させる場合は事前に協議のうえ、その対策の措置を講ずること。</p> <p>○ 5 水替・流入防止施設が必要である。 対象工種： 対象箇所： 制限内容：</p> <p>○ 6 濁水、湧水等の処理で特別な対策を必要とする。 対象工種： 対象箇所： 時期： 処理施設： 排水場所：</p> <p>● 7 当初計画と現場条件が異なった場合は、監督職員に報告し協議する。</p> <p>○ 8 本工事の着手前と完成後に、付近の家屋及び工作物等の外観調査を行い、工事による影響を把握すること。なお、調査方法、範囲等については、監督職員と協議すること。</p> <p>● 9 その他 内容 既存塗膜に有害物質である鉛が確認されており、施工時において飛散防止、処分時には特別管理産業廃棄物として取り扱いの徹底を図ること</p>																																						
安全対策関係	<p>● 1 一般の車両・歩行者の通行の影響を受けるため、交通誘導警備員を配置する必要がある。</p> <p>○ (1) 一般的な工事の場合 交通誘導警備員については、警備業法による警備員とし配置場所は監督職員と協議するものとする。</p> <p>○ (2) 栃木県公安委員会告示第54号で定める路線の場合 交通誘導警備員については、警備業法による警備員とし交通誘導警備業務(警備員等の検定等に関する規則第1条第4号に規定する交通誘導警備業務をいう)に従事する交通誘導警備業務に係る一級検定合格警備員又は二級検定合格警備員を1名以上配置しなければならない。また、警備員の配置場所は監督職員と協議するものとする。</p> <p>○ (3) 図面により配置を指定した場合 工事の施工にあたっては、別添図面のとおりに交通誘導警備員を配置し、一般交通等に支障を及ぼさないように十分注意して施工するものとする。</p> <p>● (4) 交通誘導警備員の計上 交通誘導警備員は下表のとおり見込んでいるが、警察等の協議により変更が生じた場合等は別途協議する。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">現場条件</th> <th colspan="3">交通誘導警備員A</th> <th colspan="3">交通誘導警備員B</th> </tr> <tr> <th>日数</th> <th>配置</th> <th>人数</th> <th>日数</th> <th>配置</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>昼間勤務 (8:00~17:00) (うち交替要員○人)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>夜間勤務 (20:00~5:00) (うち交替要員○人)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>53</td> <td>2</td> <td>106</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>24時間勤務 (うち交替要員○人)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">延べ _____ 人 { 昼 _____ 人 夜 _____ 人 }</p>	区分	現場条件	交通誘導警備員A			交通誘導警備員B			日数	配置	人数	日数	配置	人数	1	昼間勤務 (8:00~17:00) (うち交替要員○人)							2	夜間勤務 (20:00~5:00) (うち交替要員○人)				53	2	106	3	24時間勤務 (うち交替要員○人)						
区分	現場条件			交通誘導警備員A			交通誘導警備員B																																
		日数	配置	人数	日数	配置	人数																																
1	昼間勤務 (8:00~17:00) (うち交替要員○人)																																						
2	夜間勤務 (20:00~5:00) (うち交替要員○人)				53	2	106																																
3	24時間勤務 (うち交替要員○人)																																						

施工条件書

(●:適用する ○:適用しない)

項目	事 項
安全対策関係	<p>● 2 鉄道、ガス、電気、水道等の施設と近接する工事であるため、施工方法等に制限がある</p> <p style="margin-left: 40px;">近接協議は不要であるが以下の点に十分注意すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重機等の転落防止対策を徹底すること ・線路へ飛散物・落下物の無いように対策を講じること ・線路から見える位置で赤旗等は使用しないこと ・JR用地内、線路側への旋回はしないこと ・JRの電力架線があるため長尺物の取扱いに気をつけること <p>○ 3 落石、雪崩、土砂崩落等に対する防護施設の計上がある。</p> <p style="margin-left: 40px;">内 容 :</p> <p>○ 4 発破作業等の制限、又は保安設備、保安要員の配置指定がある。</p> <p style="margin-left: 40px;">内 容 :</p> <p>○ 5 昼夜の通行車両、自転車歩行者、飛び石防止等の安全確保をすること</p> <p style="margin-left: 40px;">内 容 :</p> <p>○ 6 その他 :</p>
工事用道路関係	<p>○ 1 一般道路を搬入路として使用するには次の制約がある。</p> <p>(1) 工事用資機材等の搬入経路、使用期間、使用时间帯等に制限がある。</p> <p style="margin-left: 40px;">搬 入 経 路 :</p> <p style="margin-left: 40px;">使用期間、時間帯 :</p> <p>(2) 搬入路の使用後及び使用後の処置が必要である。</p> <p style="margin-left: 40px;">処 置 内 容 :</p> <p>(3) 本工事周辺道路の損傷を把握するため、着手前と完成後に現地調査を行うこと。</p> <p style="margin-left: 40px;">処 置 内 容 :</p> <p>○ 2 仮設道路を設置する。</p> <p>(1) 仮設道路の安全施設が必要である。</p> <p style="margin-left: 40px;">内 容 :</p> <p>(2) 仮設道路の維持補修が必要である。</p> <p style="margin-left: 40px;">内 容 :</p> <p>(3) 工事終了後の処理: ○ 在置 ○ 撤去</p> <p>○ 3 その他 内容</p>
仮設備関係	<p>● 1 仮設足場の吊り足場について労働基準監督署に工事開始30日前まで足場設置届の受理を受けること</p> <p style="margin-left: 40px;">内 容 :</p> <p>○ 2 仮設備の構造及びその施工方法を次のとおり指定する。</p> <p style="margin-left: 40px;">内 容 :</p> <p>○ 3 その他 内容</p>

施工条件書

(●:適用する ○:適用しない)

項目	事 項							
建設副産物関係	<p>○ 1 建設発生土処理場所</p> <p>○ 指定処理(A) 残土の処理場所 : _____ 運搬距離 _____ km</p> <p>○ 指定処理(B) 設計上、残土の処理場所は、_____kmの範囲内に処理すると見込んでいるが、発注後、監督職員と協議する。</p> <p>○ その他 建設発生土の処理について、捨土処理報告書(別添様式参照)を作成し、監督員に提出する。また、原則日曜、祭日、夜間の捨土は不可とする。</p> <p>● 2 「建設工事に係る資材の再資源化に関する法律(平成12年法律第104号)」に基づき、分別解体及び再資源化の実施について適正な措置を講ずること。</p> <p>○ (1) 本工事で発生する建設廃棄物は、設計上、次の施設に持ち込むことを見込んでいる。 再生資源化施設(Co塊、As塊)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 2px;">処理品目: ○ Co塊 ○ As塊</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">所在地: _____ 運搬距離: _____ km</td> </tr> </table> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 2px;">処理品目: ○ Co塊 ○ As塊</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">施設名 _____</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">所在地: _____ 処理施設所在地 _____ 運搬距離: _____ km</td> </tr> </table> <p>再生資源化施設(建設発生木材)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 2px;">処理品目: ○ 建設発生木材</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">所在地: _____ 運搬距離: _____ km</td> </tr> </table> <p>ただし、上記は積算上の条件を明示するものであり、処理施設を指定するものではない。</p> <p>○ (2) 特定建設資材を、材料として使用する工事である。 ※特定建設資材:コンクリート、コンクリートと鉄筋を含む建設資材、木材、アスファルト</p> <p>○ その他 建設廃棄物処理委託契約を処理業者と締結し、契約書の写しを建設副産物処理承認申請書に添付すること。また、マニフェストE票の写し及び廃材処理報告書(別添様式)を竣工図書に添付すること。</p> <p>○ 3 舗装版の切断時に発生する濁水の適正な処理 本工事におけるカッター切断作業により発生する濁水については、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律(昭和45年法律第137号)」に基づき適正に処理しなければならない。 また、下記の処理施設は積算上の条件を明示するものであり、処理施設を指定するものではない。なお、舗装版切断時に発生する濁水の処理量は、設計変更の対象とする。</p> <p>積算上の処理施設: _____ 運搬距離 _____ km</p> <p>○ 4 建設汚泥の処理(舗装版切断時に発生する濁水を除く。) 下記の処理施設は、積算上の条件を明示するものであり、処理施設を指定するものではない。ただし、建設汚泥については「栃木県建設汚泥処理施設名簿」より適切な施設を選定すること。</p> <p>積算上の処理施設: ○○○会社(○○○市○○)</p> <p>※「栃木県建設汚泥処理施設名簿」は、栃木県ホームページに掲載されている。 ホーム>県政情報>庁舎・組織の案内>県土整備部 >技術管理課>4. その他情報>栃木県建設汚泥処理施設名簿について http://www.pref.tochigi.lg.jp/h02/kensetsuodei.html</p> <p>○ 5 再生資源利用[促進]計画書の提出 工事を実施するにあたり、再生資源利用[促進]計画書を施工計画書に添付するものとし、計画書の実施状況については、再生資源利用[促進]実施書を作成して、工事完了後速やかに実施書を発注者に提出すること。また、再生資源利用[促進]計画書(実施書)の作成にあたり、再生資源利用[促進]計画書(実施書)入力システムを利用するものとする。</p>	処理品目: ○ Co塊 ○ As塊	所在地: _____ 運搬距離: _____ km	処理品目: ○ Co塊 ○ As塊	施設名 _____	所在地: _____ 処理施設所在地 _____ 運搬距離: _____ km	処理品目: ○ 建設発生木材	所在地: _____ 運搬距離: _____ km
処理品目: ○ Co塊 ○ As塊								
所在地: _____ 運搬距離: _____ km								
処理品目: ○ Co塊 ○ As塊								
施設名 _____								
所在地: _____ 処理施設所在地 _____ 運搬距離: _____ km								
処理品目: ○ 建設発生木材								
所在地: _____ 運搬距離: _____ km								

施工条件書

(●:適用する ○:適用しない)

項目	事項																						
工事支障物件	<ul style="list-style-type: none"> ○ 受注者は、工事施工箇所に地下埋設物件等が予想される場合には、当該物件の位置、深さ等を調査し監督職員に報告しなければならない。また、施工の障害となる占用物件がある場合は、占有者とその処置について打ち合わせを行い、監督職員に報告しなければならない。 受注者は施工中、管理者不明の地下埋設物等を発見した場合は、監督職員に連絡し、その処置については占有者全体の現地確認を求め、管理者を明確にしなければならない。 ○ 1 地上、地下等への占用物件等で次のとおり工事支障物件が存在する。 <table style="width: 100%; margin-left: 20px;"> <tr> <td style="width: 50%;">① 支障物件 :</td> <td style="width: 50%;">② 支障物件 :</td> </tr> <tr> <td>移設時期 :</td> <td>移設時期 :</td> </tr> <tr> <td>管理者名 :</td> <td>管理者名 :</td> </tr> </table> ○ 2 工事区間には次の占用物件が存在するので、占用物件管理者に立会を求め、占用物件に影響を与えないよう施工すること。 <table style="width: 100%; margin-left: 20px;"> <tr> <td style="width: 25%;"><input type="radio"/> 電話</td> <td style="width: 25%;"><input type="radio"/> 電気</td> <td style="width: 25%;"><input type="radio"/> 上水道</td> <td style="width: 25%;"><input type="radio"/> 下水道</td> </tr> <tr> <td><input type="radio"/> ガス</td> <td><input type="radio"/> 鉄道</td> <td><input type="radio"/> 警察</td> <td><input type="radio"/> その他 :</td> </tr> </table> ○ 3 工事区間では次の占用物件が施工中であるので、占用物件管理者との工程調整を密に行い、工事に支障のないよう調整すること。 <table style="width: 100%; margin-left: 20px;"> <tr> <td style="width: 25%;"><input type="radio"/> 電話</td> <td style="width: 25%;"><input type="radio"/> 電気</td> <td style="width: 25%;"><input type="radio"/> 上水道</td> <td style="width: 25%;"><input type="radio"/> 下水道</td> </tr> <tr> <td><input type="radio"/> ガス</td> <td><input type="radio"/> 鉄道</td> <td><input type="radio"/> 警察</td> <td><input type="radio"/> その他 :</td> </tr> </table> ● 4 その他 内容 工事影響範囲内に架空電線等が存在する。 	① 支障物件 :	② 支障物件 :	移設時期 :	移設時期 :	管理者名 :	管理者名 :	<input type="radio"/> 電話	<input type="radio"/> 電気	<input type="radio"/> 上水道	<input type="radio"/> 下水道	<input type="radio"/> ガス	<input type="radio"/> 鉄道	<input type="radio"/> 警察	<input type="radio"/> その他 :	<input type="radio"/> 電話	<input type="radio"/> 電気	<input type="radio"/> 上水道	<input type="radio"/> 下水道	<input type="radio"/> ガス	<input type="radio"/> 鉄道	<input type="radio"/> 警察	<input type="radio"/> その他 :
① 支障物件 :	② 支障物件 :																						
移設時期 :	移設時期 :																						
管理者名 :	管理者名 :																						
<input type="radio"/> 電話	<input type="radio"/> 電気	<input type="radio"/> 上水道	<input type="radio"/> 下水道																				
<input type="radio"/> ガス	<input type="radio"/> 鉄道	<input type="radio"/> 警察	<input type="radio"/> その他 :																				
<input type="radio"/> 電話	<input type="radio"/> 電気	<input type="radio"/> 上水道	<input type="radio"/> 下水道																				
<input type="radio"/> ガス	<input type="radio"/> 鉄道	<input type="radio"/> 警察	<input type="radio"/> その他 :																				
その他	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1 工事用資機材の保管及び仮置きは、次のとおりとする。 保管場所 : 保管期間 : 保管方法 : ○ 2 工事現場発生品があるので、次のとおり取り扱うこと。 発生品名 : 発生数量 : 再利用の有無 : 引渡し場所 : ○ 3 支給材料及び貸与品があるので、次のとおり取り扱うこと。 支給品名 : 品質、規格又は性能 : 支給数量 : 引渡し場所 : 引渡し期間 : ○ 4 関係機関・自治体等との近接協議に係る条件等がある。 内 容 : ○ 5 架設工法を指定する。 内 容 : ○ 6 工事用電力等を指定する 内 容 : ○ 7 新技術・新工法・特許工法を指定する。 内 容 : ○ 8 部分使用を行う必要がある。 内 容 : ○ 9 その他 内 容 : 																						

(別紙 6)

廃材処理報告書

令和 年 月 日

矢板市長 様

住 所
商号又は名称
代表者氏名

廃材処理について、次のように処理を行いましたので、関係書類を添えて報告いたします。

記

1. 工 事 名
2. 工 事 場 所
3. 処 分 場 所
4. 処分地所有者名
又は処理施設社名
5. 処 理 量
6. 付 属 書 類

写真（中間処理施設看板、廃材幅管理）、位置図
中間処理施設入荷証明

特記仕様書

この特記仕様書は、栃木県土木工事共通仕様書でいう特記仕様書である。

(●:適用する ○:適用しない)

項目	事項
<p>現場代理人の常駐義務の緩和及び専任の主任技術者の兼任等</p>	<p>● 1 本工事は、現場代理人及び主任技術者の他工事との兼任は認めない。</p> <p>○ 交通量が多い現道上の工事であり、現場の安全管理に特に万全を期す必要がある。</p> <p>○ 急傾斜地での工事であり、現場の安全管理に特に万全を期す必要がある。</p> <p>○ 当該工事は_____であり、現場代理人が他の工事と兼任した場合、工事現場における運営、取締り及び権限の行使に支障があるため、兼任は認めない。</p> <p>○ 理由:</p> <p>○ 2 本工事における現場代理人について、以下のすべての要件を満たし、かつ、発注者の承諾を受ければ、他工事との兼任が可能である。ただし、作業工程上、受注者が安全管理や現場の運営・取締りなどの面で、現場代理人の常駐が必要と判断した間は、この限りではない。</p> <p>(要件)</p> <p>(1) 矢板市発注の工事で、入札公告等に兼任可能である旨明記されているもの。</p> <p>(2) 兼任できる工事は、同一現場代理人は2件までとする。</p> <p>(3) いずれの兼任工事も請負代金が3,500万円未満とする。</p> <p>(4) 工事を兼任する現場代理人は、工事現場の安全管理を徹底し、常に市(監督員)と連絡が取れる体制を確保すること。</p> <p>(5) 現場代理人は、駐在する現場に偏りがないように配慮しつつ、兼任する現場いずれかに必ず駐在し、兼任する現場の管理運営に努めるものとする。</p> <p>(6) 過去5年間に、現場代理人若しくは主任(監理)技術者として配置した矢板市発注工事において、工事成績評価が「D」以下でない者。</p> <p>※ 個々の工事の施工難易度や工事現場の条件等により兼任が不可能と判断した場合は、兼任を認めず、また兼任を取消すことがある。</p> <p>○ 3 本工事における主任技術者(監理技術者は除く。)について、以下のすべての要件を満たし、かつ、発注者の承諾を受ければ、他工事との兼任が可能である。</p> <p>(要件)</p> <p>(1) 矢板市発注の工事で、入札公告等に兼任可能である旨明記されているもの。</p> <p>(2) 工事対象となる工作物に一体性若しくは連続性が認められ工事又は施工にあたり相互に調整を要する工事で、かつ、工事場所が近接しているもの。</p> <p>(3) 主任技術者が管理することができる工事の数は、専任が必要な工事含む場合は、原則2件とする。</p> <p>(4) 過去5年間に、現場代理人若しくは主任(監理)技術者として配置した矢板市発注工事において、工事成績評価が「D」以下でない者。</p> <p>※ ただし、以下の工事は兼任を認めない。</p> <p>1. 監理技術者の配置を要すると見込まれる工事。</p> <p>2. 低入札価格調査を経て契約締結した又は締結しようとする工事。</p> <p>※ なお、主任技術者を現場ごとに専任で置く必要がある工事は、「公共性のある工作物に関する重要な工事」で、「請負金額が4,500万円以上」の工事をいう。(建設業法第26条第3項及び建設業法施行令第27条)</p> <p>また、発注者から直接請け負った工事のうち5,000万円(※土木工事の場合)以上を下請負契約して工事を施工するときは、主任技術者に代えて「監理技術者」を専任で置かなければならない。(建設業法第26条第3項及び建設業法施行令第2条)</p> <p>● 4 当該現場において現場代理人と主任技術者等の兼務は可能である。</p> <p>● 5 現場代理人又は主任技術者を兼任させようとする場合は、双方の監督員と工事打合せ簿により協議のうえ、承認を受けなければならない。承認を得たのち、管財担当へ現場代理人(主任技術者)の兼任届出書(様式第1号)を協議書の写しとともに提出すること。</p>

特記仕様書

この特記仕様書は、栃木県土木工事共通仕様書でいう特記仕様書である。

(●:適用する ○:適用しない)

項目	事項																
主任技術者について	<ul style="list-style-type: none"> ● 1 建設業法(昭和24年法律第100号)による技術検定(以下「技術検定」という。)のうち検定種目を一級の建設機械施工管理または一級の土木施工管理とするものに合格した者、並びに建設大臣が前述の者と同等以上の能力を有するものと認定した者。 ○ 2 建設業法(昭和24年法律第100号)による技術検定(以下「技術検定」という。)のうち検定種目を二級の建設機械施工管理または二級の土木施工管理とするものに合格した者、並びに建設大臣が前述の者と同等以上の能力を有するものと認定した者。 ● 3 技術法(昭和32年法律第124号)による本試験のうち技術部門を建設部門、農業部門(選択科目「農業土木」とするものに限る。)とするものに合格した者。 <p>※ なお、主任技術者等の通知書に合格証明書等有資格技術者であることを証するもの(写しでも可)を添付すること。</p>																
法定福利費を明示した請負代金内訳書の提出	<ul style="list-style-type: none"> ● 法定福利費を明示した請負代金内訳書の提出について 本工事において、受注者は、当初契約後、14日以内に請負代金内訳書(以下「内訳書」という。)を作成して、発注者に提出するものとする。 なお、変更契約時については、発注者から内訳書の提出を請求された場合、受注者は、内訳書を提出しなければならない。 																
週休2日制工事	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1 本工事は「矢板市週休2日制工事試行要領」に基づく工事である。(発注者指定型) ● 2 本工事は「矢板市週休2日制工事試行要領」に定める受注者の希望により週休2日制工事が実施できる工事である。(受注者希望型) 																
再生材関係	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1 受注者は、再生クラッシャーランの使用にあたっては、「再生材の利用基準」(県土整備部制定)を準拠することとし、現場搬入開始時には目視による品質確認状況を写真に記録するとともに、「再生クラッシャーラン(RC材)品質確認状況報告書」を作成のうえ、速やかに監督職員に提出するものとする。 なお、報告書は、本工事におけるRC材の搬入開始時に1枚作成し、その他供給元が変更するごとに最初の搬入時に1枚作成する。 ○ 2 本工事は、エコスラグ入り再生加熱アスファルト混合物を使用すること。なお、供給不能な場合などやむを得ない事情により使用できない場合は、監督職員と協議の上、再生加熱アスファルト混合物に変更できるものとする。なお、この場合においても原則として設計変更の対象としない。 																
県土整備部リサイクル製品利用指針関係	<ul style="list-style-type: none"> ● 1 受注者は、「県土整備部リサイクル製品利用指針」に基づき、「とちの環エコ製品」の使用に努めるものとする。 ○ 2 本工事では、上記に加え、以下に指定する「とちの環エコ製品」を使用するものとする。なお、指定製品の調達が困難な場合は、監督職員と協議し、使用目的に応じて、他の「とちの環エコ製品」又は、新材品等に変更することができる。 この工事で使用を指定する「とちの環エコ製品」 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin: 10px 0;"> <thead> <tr> <th style="width: 5%;"></th> <th style="width: 30%;">使用工種</th> <th style="width: 45%;">とちの環エコ製品 品目名・ブランド名</th> <th style="width: 20%;">規格・寸法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ● 3 受注者は、「とちの環エコ製品」を利用した場合は、別紙の「リサイクル製品利用実績書」を工事完成時に再生資源利用実施書に添付して提出するものとする。 		使用工種	とちの環エコ製品 品目名・ブランド名	規格・寸法	1				2				3			
	使用工種	とちの環エコ製品 品目名・ブランド名	規格・寸法														
1																	
2																	
3																	

特記仕様書

この特記仕様書は、栃木県土木工事共通仕様書でいう特記仕様書である。

(●:適用する ○:適用しない)

項目	事項									
不正軽油防止対策	<ul style="list-style-type: none"> ● 工事現場における不正軽油の使用防止に関し、次の事項を遵守すること。 <ol style="list-style-type: none"> 1 本工事は、地方税法(昭和25年法律第226号)及び特定特殊自動車排出ガスの規制等に関する法律(平成17年5月25日法律第51号)を遵守すること。 2 本工事で使用し又は使用させる軽油使用の車両(資機材等の搬出入車両を含む)並びに建設機械等の燃料には規格(JIS)に合った軽油を使用すること。 また、使用燃料の抜き取り調査を行う場合には、現場代理人がこれに立ち会うなど協力を行うこと。 3 以上のことについて、下請業者及び資材運搬業者等にも十分に指導すること。 									
出水期間中の現場管理及び施工	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1 出水期間中の現場管理及び施工について 本工事における出水期間中の現場管理及び施工については、栃木県土木工事共通仕様書第1編「1-1-1-26工事中の安全確保」に基づき、作業員の待避及び仮設物・資機材等の流出防止等、必要な対策を講ずるものとする。 なお、上記については栃木県土木工事共通仕様書「1-1-1-4施工計画書」に基づき、施工計画書に記載のうえ監督員に提出するものとする。 また、気象情報や河川水位の収集及び伝達方法等についても施工計画書に記載し、安全確保に万全の体制を執るものとする。 									
その他	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1 本工事は _____ 調査の対象工事となっているので、調査票を提出すること。 ● 2 本工事は、工事の最終成果を電子データで納品する電子納品対象工事である。 (1) ここでいう電子データとは、「電子納品運用に関するガイドライン(案)」(以下「電子納品ガイドライン」という)に示されたファイルフォーマットに基づいて作成されたものを指す。 なお、書面における署名または押印の取扱いについては、別途監督員と協議するものとする。 (2) 成果品の提出の際には、国土交通省チェックシステムを利用し、エラーがないことを確認した後、ウイルスチェックを実施したうえで電子媒体(CD-R等)に格納して正副各1部、計2部提出する。 なお、電子納品の対象外とした書類は、従来通り紙で納品する。 「ガイドライン」で特に記載のない項目については、原則として成果を電子化して提出する義務はないが、監督職員と協議の上、電子化を決定する。また、紙による書類の提出は必要最小限とする。 (3) 請負者は、発注者に提出する電子媒体に格納したデータを、バックアップとして請負者のハードディスク等に保管し、その保管年数は10年間を原則とする。 (4) 受注者は、電子媒体(CD-R又はDVD-R)において、提出した電子データが「電子納品ガイドライン」に基づき作成されていることを監督職員の立会いのもと確認する。 なお、電子データの検査方法については、別途協議のうえ決定する。 (5) 受注者は、本工事の実施にあたり内容に疑義が生じた場合には、速やかに監督職員と協議し、その指示を受けなければならない。 ○ 3 瀝青材料の散布量については次のとおりとする。 瀝青材料の散布量(100m²当り) <table border="1" style="margin-left: 20px; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;">種 別</th> <th style="width: 20%;">単 位</th> <th style="width: 50%;">数 量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>タックコート</td> <td>ℓ</td> <td>43</td> </tr> <tr> <td>プライムコート</td> <td>ℓ</td> <td>126</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> (注) 1. 基層にグースアスファルト混合物を使用する場合の瀝青材料は、タックコート(ゴム入り)を使用する。 2. 排水性アスファルト混合物を使用する場合の瀝青材料は、タックコート(ゴム入り)を使用する。 3. 上記の散布量には、材料ロス分を含む。 ● 4 本工事において、受注者は法定外の労災保険に付さなければならない。 受注者は保険契約の締結後速やかに、その証券又はこれに代わるものを発注者に提示し確認を受けること。 ● 5 CORINSへの登録(栃木県土木工事共通仕様書 1-1-5CORINSへの登録) CORINSへの登録は、契約後10日以内(土日祝日を除く。)を行うこと。 また、技術者の従事期間は、実工期の期間(契約書に記載されている工期)をもって登録すること。 ○ 6 その他 内容 : 	種 別	単 位	数 量	タックコート	ℓ	43	プライムコート	ℓ	126
種 別	単 位	数 量								
タックコート	ℓ	43								
プライムコート	ℓ	126								

事務所 設計書名 変更回数	11 矢板市 実施設計書 当初 07-00000000000-40 0		
適用単価区分 適用単価地区 適用単価世代	1 実施単価 61 矢 板土木事務所管内 0-070710(0)		
諸経費体系 ファイル名	1 一般公共 【R7】橋梁補修工事(矢板駅構内跨線人道橋).ES5		
	当 世 代	前 世 代	
前払率	40		
工種	08 鋼橋架設工事		
現場環境改善費	00 計上しない		
市街地補正区分	11 市街地		
交通規制区分	03 一般交通影響なし		
ゼロ債務工事に係る補正	01 補正なし		
週休二日補正区分	01 補正なし		
契約保証方法	01 金銭的保証		
ICT間接費率補正の有無	01 補正なし		
消費税等の率	06 10%適用		
この「参考資料」は、入札参加者の適正かつ迅速な見積りに資するための資料であり、契約書第一条にいう設計図書ではない。			

07-00000000000-40

数 量 総 括 表 (設 計 書)

工事区分(項目)・工種・種別・細別	規 格	単 位	数量(前回)	数量(今回)	摘 要
本 工 事					
橋梁保全工事		1 式			Y17ZZ
橋梁付属物工		1 式			Y1775
排水施設工		1 式			Y1775202
既設排水装置撤去		1 式			Y17752025JL
既設排水装置撤去工		箇所		4	V0700
積込・運搬		1 式			Y17752025J8
現場発生品及び支給品積込み・荷卸し		t		0.19	SZA084
A=1, B=1 現場発生品及び支給品運搬	DID区間あり	t		0.19	SZA082
A=1, B=2, C=9, D=1 処分		1 式			Y17752025J8
諸経費対象外(共× 現× 一×)		1 式		1	#0046
有価物控除	鉄 へびーH1 (1 t 超)	t		0.19	S0025
A=1, B=2					

07-00000000000-40

数量総括表 (設計書)

頁0-0002

工事区分(項目)・工種・種別・細別	規 格	単 位	数量 (前回)	数量 (今回)	摘 要
排水樹設置工					Y1775202B8N
		1式			
排水樹	排水樹A				SZD261
A=1		箇所		4	
排水樹	FRP				F0695
		個		4	
排水管設置工					Y17752025FB
		1式			
排水管設置	足場あり				SZE781
A=2		m		7.5	
フレキシブル管	VP125				F0700
		個		4	
VP125	直管 4.0m/本				F0710
		m		4.0	
VP125用大曲エルボ90°					F0720
		個		4	
VP125用エルボ45°					F0730
		個		4	
可とう性異種管用継手					F0740
		個		4	
立バンド	VP125用 電気亜鉛メッキ仕上げ				F0760
		個		12	
支持金具PL	50×6×189				F0770
		枚		8	

07-0000000000-40

数量総括表 (設計書)

頁0-0003

工事区分(項目)・工種・種別・細別	規 格	単 位	数量 (前回)	数量 (今回)	摘 要
横断歩道橋工					Y1776
		1式			
横断歩道橋工					Y1776200
		1式			
B階段補修工					Y17762004DF
		1式			
素地調整工 区分A	2種ケレン				V0350
		m2		10	
素地調整工 区分C	2種ケレン				V0360
		m2		0.7	
紫外線硬化型FRPシート設置工	区分A 紫外線照射なし				F0600
		m2		10	
紫外線硬化型FRPシート設置工	区分C 紫外線照射なし				F0610
		m2		0.7	
橋梁補修工					Y1782
		1式			
支承補修工					Y17822M7
		1式			
支承補修					Y17822M75S2
		1式			
ボルトキャップ設置工	M22ダブルナット				V0400
		箇所		8	
ボルトキャップ	M22ダブルナット用				F0400
		set		1	

07-0000000000-40

数量総括表 (設計書)

頁0-0004

工事区分(項目)・工種・種別・細別	規 格	単 位	数量 (前回)	数量 (今回)	摘 要
アンカーボルト補修工	M24ナット点付け溶接	箇所		2	V0410
断面修復工		1式			Y17822MA
左官工法		1式			Y17822MA6XS
断面修復工 (左官工法) A=1, B=2, C=0.16	鉄筋ケレン・鉄筋防錆処理あり 1構造物当り修復延べ体積0.16m ³	構造物		1	SA669
現場塗装工		1式			Y1778
橋梁塗装工		1式			Y1778200
素地調整		1式			Y1778200629
清掃・水洗い等		m ²		825	V0100
塗膜除去工 (塗膜剥離剤)		m ²		825	G0120
2種ケレン		m ²		825	V0120
廃材回収・積込		1式			Y473P160000
塗膜剥離剤塗布・塗膜除去	廃材の回収・積込 時間的制約 無	m ²		825	F0102

07-0000000000-40

数量総括表 (設計書)

頁0-0005

工事区分(項目)・工種・種別・細別	規 格	単 位	数量 (前回)	数量 (今回)	摘 要
運搬		1式			Y473P160000
産廃収集運搬費		台		3	F0103
処分		1式			Y473P160000
処分費	特管汚泥	式		1	S0023
処分費	廃プラ (鉛付着)	m ³		10	S0020
防食下地		1式			Y17782005GI
超遮塩性塩害対策塗装工	防食下地1回	m ²		825	V0160
超遮塩性塩害対策塗装工	防食下地2回	m ²		825	V0160
下塗		1式			Y17782005GI
超遮塩性塩害対策塗装工	下塗1回	m ²		825	V0170
超遮塩性塩害対策塗装工	下塗2回	m ²		825	V0170
上塗		1式			Y17782005G0

07-0000000000-40

数量総括表 (設計書)

頁0-0006

工事区分(項目)・工種・種別・細別	規 格	単 位	数量(前回)	数量(今回)	摘 要
超遮塩性塩害対策塗装工	上塗	m2		825	V0180
仮設工		1式			Y1781
足場工		1式			Y1781200
仮囲い【夜間】		1式			Y17812005EP
仮囲い設置 階段部	【夜間施工】	m		26.2	V0820
仮囲い撤去 階段部	【夜間施工】	m		26.2	V0825
仮囲い賃料 階段部		m		26.2	V0830
枠組足場【夜間】		1式			Y17812004P0
枠組足場設置 B階段部	【夜間施工】	掛m2		383	V0835
枠組足場撤去 B階段部	【夜間施工】	掛m2		383	V0840
枠組足場設置 P6部	【夜間施工】	掛m2		69	V0845
枠組足場撤去 P6部	【夜間施工】	掛m2		69	V0850

07-0000000000-40

数量総括表 (設計書)

頁0-0007

工事区分(項目)・工種・種別・細別	規 格	単 位	数量(前回)	数量(今回)	摘 要
枠組み足場損料		掛m2		451	V0855
吊足場【夜間】		1式			Y17812005EQ
吊足場設置 主体足場	システムパネル 【夜間施工】	m2		159	V0860
吊足場撤去 主体足場	システムパネル 【夜間施工】	m2		159	V0865
吊足場設置 両側朝顔防護工	【夜間施工】	m2		187	V0875
吊足場撤去 両側朝顔防護工	【夜間施工】	m2		187	V0880
吊足場損料 主体足場	システムパネル	m2		159	V0870
吊足場損料 両側朝顔防護		m2		187	V0885
養生・防炎シート		m2		504	V0890
環境対策工		1式			Y1781201
環境対策		1式			Y1781201B08
環境対策資機材		式		1	V0900

07-0000000000-40

数量総括表 (設計書)

工事区分(項目)・工種・種別・細別	規 格	単 位	数量 (前回)	数量 (今回)	摘 要
交通管理工		1式			Y1781232
交通誘導警備員【夜間】		1式			Y1781232Y21
交通誘導警備員の計上 A=53, B=2	交通誘導警備員B	式		1	S0914

07-0000000000-40

数量総括表 (設計書)

工事区分(項目)・工種・種別・細別	規 格	単 位	数量 (前回)	数量 (今回)	摘 要
直接工事費		1式			
安全費		1式			
安全衛生保護具 (施工者用)	3人施工	式		1	G0900
安全衛生保護具 (監督員用)	立会2人 2回分	式		1	G0905
共通仮設費 (率分)		1式			
共通仮設費計		1式			
純工事費		1式			
現場管理費		1式			
工事原価		1式			
一般管理費等		1式			
契約保証費		1式			
一般管理費等計		1式			

07-0000000000-40

数量総括表 (設計書)

頁0-0010

工事区分(項目)・工種・種別・細別	規 格	単 位	数量 (前回)	数量 (今回)	摘 要
工事価格		1式			
工事価格計		1式			
消費税・地方消費税額		1式			
請負工事費		1式			

07-0000000000-40

数量総括表 (設計書)

頁0-0011

工事区分(項目)・工種・種別・細別	規 格	単 位	数量 (前回)	数量 (今回)	摘 要
塗膜除去工 (塗膜剥離剤)					G0120
塗膜剥離剤塗布・塗膜除去	横断歩道橋・側道橋・鋼製シェッド 時間の制約 無	m2		1	F0101
塗膜剥離剤	橋梁用typeⅡ 水系 0.5~1.0kg/m2	kg		0.75	F0100
ロス率 (剥離剤)	鈹桁・箱桁構造以外	%			#0001
計		m2		1	

07-0000000000-40

数量総括表 (設計書)

頁0-0012

工事区分(項目)・工種・種別・細別	規 格	単 位	数量(前回)	数量(今回)	摘 要
安全衛生保護具 (施工者用)	3人施工				G0900
電動ファン付き呼吸用全面保護具	SY185HM相当	個		3	F0970
電動ファン付き呼吸用	V3/0V	個		576	F0975
化学防護服	ケミガードSF2000 シューズカバー含む	着		576	F0980
化学防護手袋	37-176L	双		576	F0985
計		式		1	

07-0000000000-40

数量総括表 (設計書)

頁0-0013

工事区分(項目)・工種・種別・細別	規 格	単 位	数量(前回)	数量(今回)	摘 要
安全衛生保護具 (監督員用)	立会2人 2回分				G0905
電動ファン付き呼吸用全面保護具	SY185HM相当	個		2	F0970
電動ファン付き呼吸用	V3/0V	個		4	F0975
化学防護服	ケミガードSF2000 シューズカバー含む	着		4	F0980
化学防護手袋	37-176L	双		4	F0985
計		式		1	

07-0000000000-40

工事費内訳書

入札日 令和 年 月 日

商号又は名称
代表者の氏名
(代理人)

印
印)

工事名

工事箇所

費目・工種・施工名称など	数量	単位	金額	備考
本工事				
橋梁保全工事	1	式		
橋梁付属物工	1	式		
排水施設工	1	式		
横断歩道橋工	1	式		
横断歩道橋工	1	式		
橋梁補修工	1	式		
支承補修工	1	式		
断面修復工	1	式		
現場塗装工	1	式		
橋梁塗装工	1	式		
仮設工	1	式		
足場工	1	式		
環境対策工	1	式		
交通管理工	1	式		

注1)「費目・工種・施工名称など」欄には、設計書の「数量総括表」の工事区分、工種、種別に該当する項目の全て、及び共通仮設費、現場管理費、一般管理費について記入すること。

注2)共通仮設費については、合計金額のほか、内訳として運搬費、準備費、仮設費、事業損失防止施設費、安全費、役務費、技術管理費、営繕費のうち、当該工事で該当する項目全てについて記入すること。

注3)不明な点は事業主管課等に確認すること。

工事費内訳書

入札日 令和 年 月 日

商号又は名称
代表者の氏名
(代理人)

印
印)

工事名

工事箇所

費目・工種・施工名称など	数量	単位	金額	備考
直接工事費	1	式		
安全費	1	式		
共通仮設費(率分)	1	式		
共通仮設費計	1	式		
純工事費	1	式		
現場管理費	1	式		
工事原価	1	式		
一般管理費等	1	式		
契約保証費	1	式		
一般管理費等計	1	式		
工事価格	1	式		
工事価格計	1	式		

注1)「費目・工種・施工名称など」欄には、設計書の「数量総括表」の工事区分、工種、種別に該当する項目の全て、及び共通仮設費、現場管理費、一般管理費について記入すること。

注2)共通仮設費については、合計金額のほか、内訳として運搬費、準備費、仮設費、事業損失防止施設費、安全費、役務費、技術管理費、営繕費のうち、当該工事で該当する項目全てについて記入すること。

注3)不明な点は事業主管課等に確認すること。

公表単価一覧表

工事及び業務名 橋梁補修工事 矢板駅構内跨線人道橋

名称	規格	単位	単価:円	適用区分			備考
				機	労	材	
既設排水装置撤去工		箇所	104,370	○	○		V0700
排水柵	FRP製	個	49,900			○	F0695
フレキシブル管	VP125	個	28,700			○	F0700
可とう政異種管用継ぎ手		個	22,500			○	F0740
立バンド	VP125用 電気亜鉛メッキ仕上げ	個	2,350			○	F0760
支持金具PL	50×6×189	枚	7,700			○	F0770
素地調整工 A区分		m2	4,542	○	○		V0350
素地調整工 C区分		m2	3,219	○	○		V0360
ボルトキャップ設置工	M22ダブルナット用	箇所	2,756	○	○		V0400
ボルトキャップ	M22ダブルナット用	set	14,800			○	F0400
アンカーボルト補修工	M24ナット点付け溶接	箇所	9,456	○	○	○	V0410
清掃・水洗い等		m2	179	○	○		V0100
2種ケレン		m2	3,287	○	○		V0120
廃材運搬	鉛含有塗膜・養生シート・防護服等	台	150,000	○	○		F0103
廃材処分費	鉛含有塗膜	式	380,000			○	S0023
廃材処分費	養生シート・防護服等	m3	45,000			○	S0020
超遮塩性塩害対策塗装工	防食下地	m2	2,182	○	○	○	V0160
超遮塩性塩害対策塗装工	下塗	m2	2,039	○	○	○	V0170
超遮塩性塩害対策塗装工	上塗	m2	4,014	○	○	○	V0180
仮囲い設置	階段部	m	23,954	○	○		V0820
仮囲い撤去	階段部	m	15,975	○	○		V0825
仮囲い損料	階段部	m	5,950			○	V0830
枠組足場設置	B階段部	掛m2	7,115	○	○		V0835
枠組足場撤去	B階段部	掛m2	5,154	○	○		V0840
枠組足場設置	P6部	掛m2	11,856	○	○		V0845
枠組足場撤去	P6部	掛m2	7,608	○	○		V0850
枠組み足場損料		掛m2	1,700			○	V0855
吊足場設置	主体足場	m2	8,504	○	○		V0860
吊足場撤去	主体足場	m2	4,076	○	○		V0865
吊足場設置	両側朝顔防護工	m2	9,384	○	○		V0875

(備考)

1 本表に掲載されている単価は、見積りおよび特別調査により決定したものである。

2 適用区分に○印があるものは、下記の価格を示す。

「機」機械器具等の損料または賃料

「労」労務費

「材」材料費

数量総括表

橋梁補修工事_矢板駅構内跨線人道橋

工事区分(項目)・工種・種別・細別	規 格	単 位	数量(当初)	数量(変更)	数量(増減)	摘 要
本 工 事						
橋梁保全工事						
橋梁付属物工						
排水施設工						
既設排水装置撤去						
既設排水装置撤去工		箇所	4			
積込・運搬						
現場発生品及び支給品 積込み・荷卸し		t	0.19			
現場発生品及び支給品 運搬	DID区間あり	t	0.19			
処分						
諸経費対象外(共×現 ×-×)		1式	1			
有価物控除	鉄 ヘビーH1 (1t超)	t	0.19			Gコード内×、共×現× -×、現環×
排水樹設置工						
排水樹	排水樹A	箇所	4			
排水樹	FRP	個	4			
排水管設置工						
排水管設置	足場あり	m	7.5			
フレキシブル管	VP125	個	4			
VP125	直管 4.0m/本	m	4.0			
VP125用大曲エルボ90°		個	4			
VP125用エルボ45°		個	4			
可とう性異種管用継手		個	4			
立バンド	VP125用 電気亜鉛メッキ仕上げ	個	12			
支持金具PL	50×6×189	枚	8			
横断歩道橋工						
横断歩道橋工						
B階段補修工						
素地調整工 区分A	2種ケレン	m2	10			
素地調整工 区分C	2種ケレン	m2	0.7			
紫外線硬化型FRPシート 設置工	区分A 紫外線照射なし	m2	10			
紫外線硬化型FRPシート 設置工	区分C 紫外線照射なし	m2	0.7			
橋梁補修工						

数量総括表

橋梁補修工事_矢板駅構内跨線人道橋

工事区分(項目)・工種・種別・細別	規 格	単 位	数量(当初)	数量(変更)	数量(増減)	摘 要
支承補修工						
支承補修						
ボルトキャップ設置工	M22ダブルナット	箇所	8			
ボルトキャップ	M22ダブルナット用	set	1			
アンカーボルト補修工	M24ナット点付け溶接	箇所	2			
断面修復工						
左官工法						
断面修復工(左官工法)	鉄筋ケレン・鉄筋防錆処理あり 1構造物当り修復延べ体積0.16m ³	構造物	1			
現場塗装工						
橋梁塗装工						
素地調整						
清掃・水洗い等		m ²	825			
塗膜除去工(塗膜剥離剤)		m ²	825			
2種ケレン		m ²	825			
廃材回収・積込						
塗膜剥離剤塗布・塗膜除去	廃材の回収・積込 時間的制約 無	m ²	825			
運搬						
産廃収集運搬費		台	3			
処分						
処分費	特管汚泥	式	1			
処分費	廃プラ(鉛付着)	m ³	10			
防食下地						
超遮塩性塩害対策塗装工	防食下地1回	m ²	825			
超遮塩性塩害対策塗装工	防食下地2回	m ²	825			
下塗						
超遮塩性塩害対策塗装工	下塗1回	m ²	825			
超遮塩性塩害対策塗装工	下塗2回	m ²	825			
上塗						
超遮塩性塩害対策塗装工	上塗	m ²	825			
仮設工						
足場工						
仮囲い【夜間】						

排水装置補修工

種 類	算 式	数 量
排水装置補修工		
排水装置撤去工		
7径間 DR-2		
SGP80A 単位重量: 8.79 kg/m		
L1= 0.250 × 2 = 0.500 m		0.5 (m)
W1= 0.500 × 8.79 = 4.395 kg		4.4 (kg)
SGP100A 単位重量: 12.2 kg/m		
L2= 1.530 × 2 = 3.060 m		3.1 (m)
W2= 3.100 × 12.20 = 37.820 kg		37.8 (kg)
SGP125A 単位重量: 15.0 kg/m		
L3= 0.390 × 2 = 0.780 m		0.8 (m)
W3= 0.800 × 15.00 = 12.000 kg		12.0 (kg)
	Σ W =	54 (kg)
掃除口 SGP100A	N1=	2 (個)
掃除口 SGP125A	N2=	2 (個)
排水柵(鋼製)	N3=	2 (個)
7径間 DR-3		
SGP80A 単位重量: 8.79 kg/m		
L1= 0.250 × 2 = 0.500 m		0.5 (m)
W1= 0.500 × 8.79 = 4.395 kg		4.4 (kg)
SGP100A 単位重量: 12.2 kg/m		
L2= 2.470 × 2 = 4.940 m		4.9 (m)
W2= 4.900 × 12.20 = 59.780 kg		59.8 (kg)
SGP125A 単位重量: 15.0 kg/m		
L3= 0.390 × 2 = 0.780 m		0.8 (m)
W3= 0.800 × 15.00 = 12.000 kg		12.0 (kg)
	Σ W =	76 (kg)
掃除口 SGP100A	N1=	2 (個)
掃除口 SGP125A	N2=	2 (個)
排水柵(鋼製)	N3=	2 (個)
撤去数量合計		
SGP80A	Σ L1 = 1.0 m	1.0 (m)
SGP100A	Σ L2 = 8.0 m	8.0 (m)
SGP125A	Σ L3 = 1.6 m	1.6 (m)
総重量	Σ V =	130 (kg)
排水柵(鋼製)	Σ N2 = 4 個	4 (個)
総重量	Σ V = 54.7 kg	55 (kg)

排水装置補修工

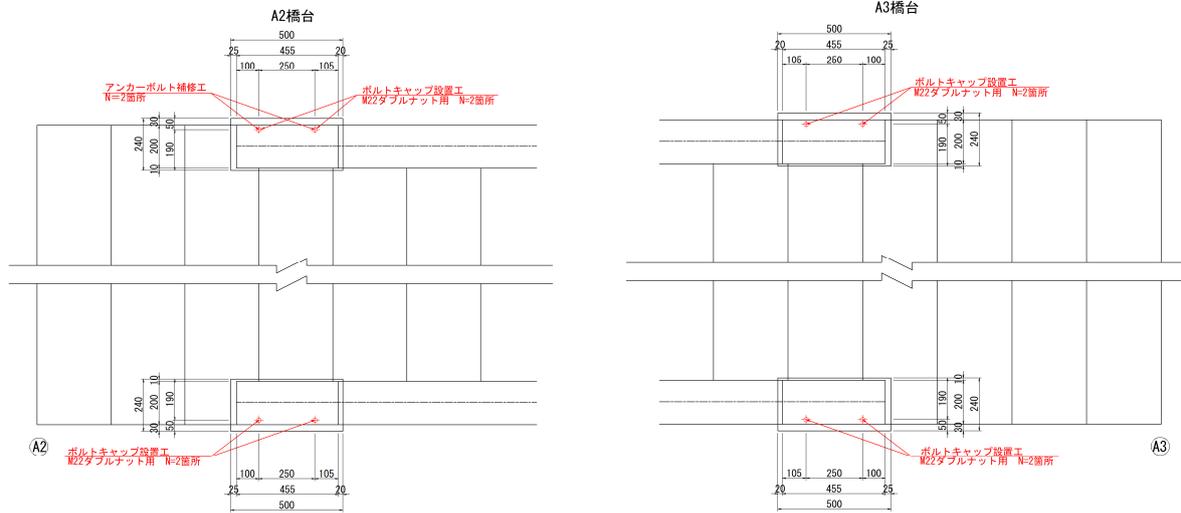
種 類	算 式	数 量
排水装置設置工		
7径間 DR-2		
VP 125 直管		
L1= 0.394 × 2	= 0.788 m	0.8 (m)
L2= 0.323 × 2	= 0.646 m	0.6 (m)
フレキシブル管		
L3= 0.880 × 2	= 1.760 m	1.8 (m)
排水樹(FRP製)	N=	2 (個)
45° エルボ VP125	N=	4 (個)
可とう性異種管継手	N=	2 (個)
立バンド VP125	N=	6 (個)
支持金具PL PL 50x6x189	N=	4 (枚)
7径間 DR-3		
VP 125 直管		
L1= 0.949 × 2	= 1.898 m	1.9 (m)
L2= 0.342 × 2	= 0.684 m	0.7 (m)
フレキシブル管		
L3= 0.880 × 2	= 1.760 m	1.8 (m)
排水樹(FRP製)	N=	2 (個)
90° 大曲エルボ VP125	N=	4 (個)
可とう性異種管継手	N=	2 (個)
立バンド VP125	N=	6 (個)
支持金具PL PL 50x6x189	N=	4 (枚)
補修数量合計		
VP 125 直管	Σ L1 = 4.0 m	4.0 (m)
フレキシブル管	Σ L3 = 3.520 m	3.5 (m)
排水樹(FRP製)	Σ N1 = 4 個	4 (個)
45° エルボ VP125	Σ N2 = 4 個	4 (個)
90° 大曲エルボ VP125	Σ N3 = 4 個	4 (個)
可とう性異種管継手	Σ N4 = 4 個	4 (個)
立バンド VP125	Σ N5 = 12 個	12 (個)
支持金具PL	Σ N6 = 8 枚	8 (枚)
既設排水樹撤去部 モルタル充填		
V= 0.200 × 0.125 × 0.140	= 0.004 m3	
0.004 × 4 箇所	=	0.016 m3
樹脂充填		
A1= 0.100 × 0.100 × 3.140	= 0.0310 m2	
A2= 0.0785 × 0.0785 × 3.140	= 0.0190 m2	
A1-A2= 0.0310 - 0.0190	= 0.0120 m2	
V= 0.012 × 0.190	= 0.002 m3	
0.002 × 4 箇所	=	0.008 m3

階段補修工

種 類	算 式	数 量
階段補修工 B階段補修工 紫外線硬化型FRPシート設置工	IBNETIS:CB-990022-V相当品 階段ササラ部 A区分 A1= 0.15 m × 0.33 m × 144 箇所 = 踊場ササラ部 C区分 A2= 0.15 m × 1.2 m × 4 箇所 = 蹴上げ部 A区分 A3= 0.13 m × 0.17 m × 152 箇所 = A区分 = C区分 =	7.13 (㎡) 0.72 (㎡) 3.36 (㎡) 10.49 (㎡) 0.7 (㎡)

支承補修工

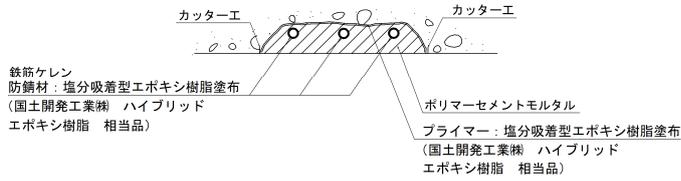
形状・寸法



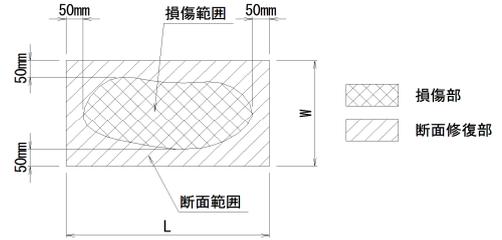
種類	算式		数量
支承補修工 ボルトキャップ設置工	A2橋台	M22ダブルナット用	N= 4 (本)
	A3橋台	M22ダブルナット用	N= 4 (本)
	計		N= 8 (本)
アンカーボルト補修工	A2橋台	M24ナット点付け溶接	N= 2 (箇所)

下部工補修工

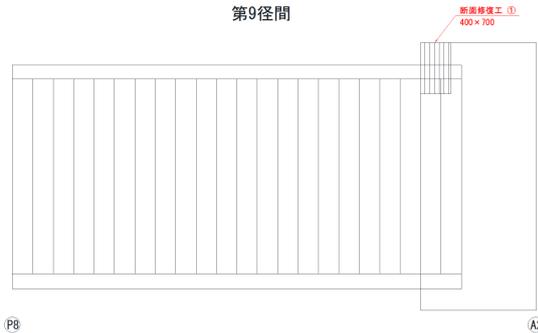
形状・寸法



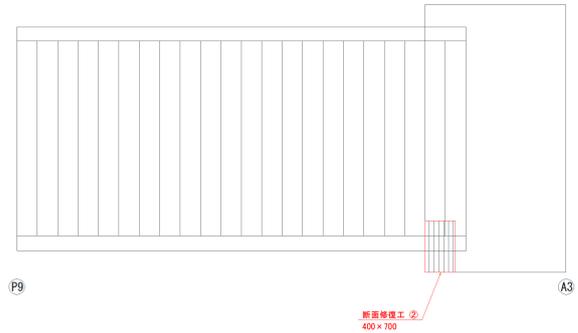
- 注) 1. はつり処理深さは鉄筋の裏側までとし、鉄筋を確実に露出させること。
 2. 鉄筋錆については、ワイヤブラシやディスクサンダーなどで確実に除去すること。
 3. 既設鉄筋はケレン後迅速に、防錆材を塗布すること。



第9径間



第11径間



種類	算式	数量
下部工補修工 断面修復工 左官工法		
第9径間	鉄筋ケレン・鉄筋防錆処理を含む	V=
第11径間	施工条件: 昼間施工	
		0.16 (m³)

損傷箇所	損傷種類	損傷範囲		はつり余裕 (m)	箇所数	面積 (m2)	深さ (m)	体積 (m3)	備考	
		幅 (m)	延長 (m)							
A2橋台										
①	剥離・鉄筋露出	0.40	x	0.70	0.10	1	0.400	0.20	0.080	A2橋台
	合計				1	0.400		0.080		
A3橋台										
②	剥離・鉄筋露出	0.40	x	0.70	0.10	1	0.400	0.20	0.080	A3橋台
	合計				1	0.400		0.080		

塗替え塗装工(上部工)内訳

施工条件：昼間足場施工、素地調整(2種ケレン) L=52.27m

塗装箇所		幅(mm)	長さ(mm)	面数	員数	ネット率	面積(m2)	備考
B階段部								
主桁	U.FLG	200	13190	1	2	100%	5.28	
	WEB	378	13190	2	2	100%	19.94	
	L.FLG	200	13190	2	2	100%	10.55	
	U.FLG	200	13090	1	2	100%	5.24	
	WEB	378	13090	2	2	100%	19.79	
	L.FLG	200	13090	2	2	100%	10.47	
						計	71.27	
横桁	U.FLG	250	2820	1	2	100%	1.41	
	WEB	207	2820	2	2	100%	2.33	
	L.FLG	250	2820	2	2	100%	2.82	
						計	6.56	
跨線部								
主桁	U.FLG	300	26000	1	4	100%	31.20	
	WEB	806	26000	2	4	100%	167.65	
	L.FLG	300	26000	2	4	100%	62.40	
						計	261.25	
横桁	U.FLG	200	1420	1	27	100%	7.67	
	WEB	548	1690	2	27	100%	50.01	
	L.FLG	200	1420	2	27	100%	15.34	
						計	73.02	
下横構	GUSS PL	480	850	2	3	32%	0.77	
	GUSS PL	460	500	2	4	32%	0.58	
	GUSS PL	480	850	2	2	32%	0.52	
	GUSS PL	400	750	2	2	32%	0.38	
	GUSS PL	450	950	2	2	32%	0.54	
	GUSS PL	370	760	2	11	32%	1.95	
	GUSS PL	450	950	2	11	32%	2.97	
	GUSS PL	185	380	2	3	32%	0.13	
	GUSS PL	450	475	2	1	32%	0.14	
	[130x130	1680	2	6	79%	4.14	
	[130x130	1890	2	2	79%	1.55	
	[130x130	2030	2	27	79%	22.53	
						計	36.20	
床版		287	1390	1	18	100%	7.18	
デッキプレートA	L. 65×65	130	1655	1	6	47%	0.61	
		287	1390	1	178	100%	71.01	
デッキプレートB	L. 65×65	130	3400	1	30	47%	6.22	
		287	1390	1	33	100%	13.16	
デッキプレートC	L. 65×65	130	3105	1	6	47%	1.14	
		287	1390	1	26	100%	10.37	
デッキプレートD	L. 65×65	130	1220	1	12	47%	0.89	
						計	110.58	

塗 装 箇 所		幅(mm)	長さ(mm)	面数	員数	ネット率	面積(m2)	備 考
ブラケット	PL	250	400	2	12	100%	2.40	
	PL	380	484	2	12	72%	3.18	
						計	5.58	
プルボックス	PB	150	150	1	2	100%	0.05	
	PB	150	100	4	2	100%	0.12	
						計	0.17	
	合計					Σ =	564.63	

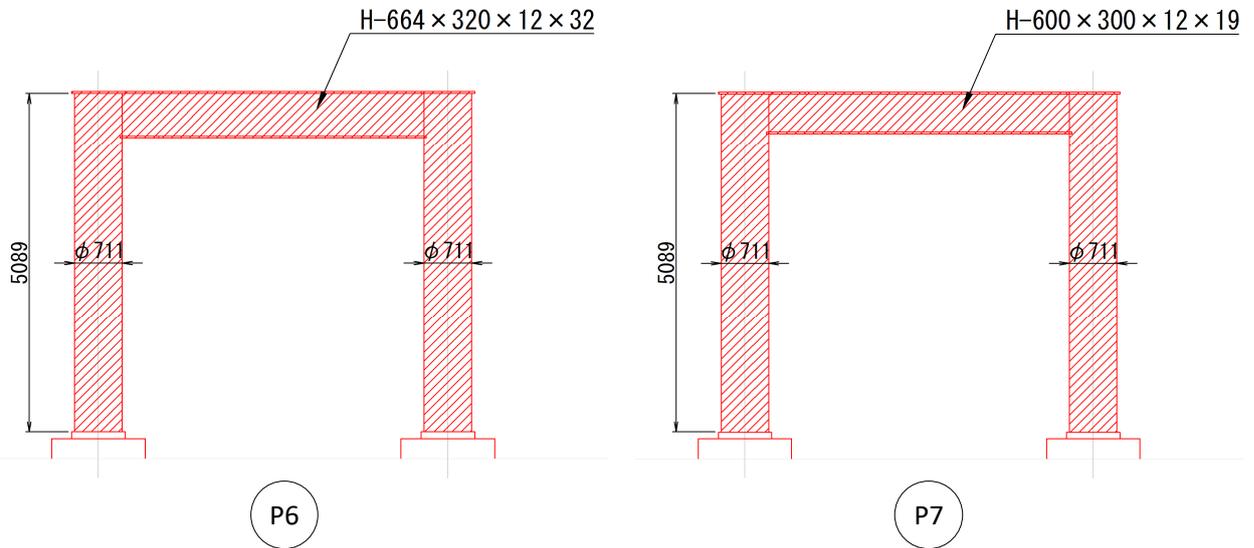
塗装面積を施工条件毎に区分する。

施工条件: 屋間足場施工、素地調整(2種ケレン)

A= 564.63 m²

塗替え塗装工

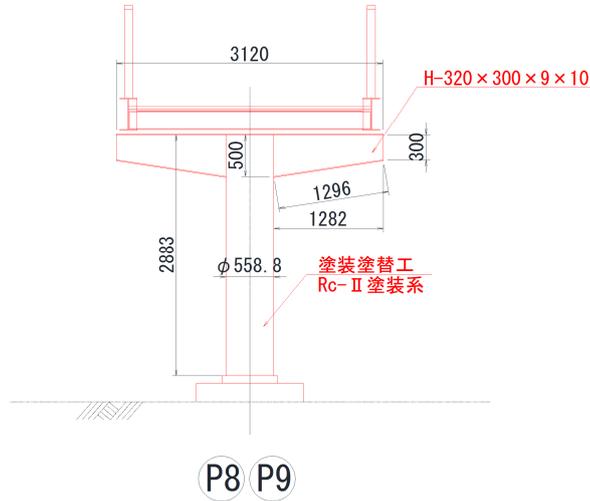
形状・寸法



種類	算式	数量
塗替え塗装工		
鋼製橋脚	塗装仕様: 超遮塩性塩害対策塗装系 素地調整: 2種ケレン(湿式塗膜剥離剤) 施工条件: 昼間足場施工 P6橋脚	
梁 上面	$A1 = 0.320 \times 4.509 = 1.443 \text{ m}^2$	1.443 (m ²)
梁 下面	$A2 = 0.320 \times 4.509 = 1.443 \text{ m}^2$	1.443 (m ²)
梁 断面	$A3 = 0.664 \times 4.509 \times 2 = 5.988 \text{ m}^2$	5.988 (m ²)
柱周り	$Q = \pi \times 0.711 = 2.234 \text{ m}$ $A4 = 2.234 \times 5.089 \times 2 = 22.734 \text{ m}^2$	22.734 (m ²)
	P7橋脚	
梁 上面	$A1 = 0.300 \times 4.509 = 1.353 \text{ m}^2$	1.353 (m ²)
梁 下面	$A2 = 0.300 \times 4.509 = 1.353 \text{ m}^2$	1.353 (m ²)
梁 断面	$A3 = 0.600 \times 4.509 \times 2 = 5.411 \text{ m}^2$	5.411 (m ²)
柱周り	$Q = \pi \times 0.711 = 2.234 \text{ m}$ $A4 = 2.234 \times 5.089 \times 2 = 22.734 \text{ m}^2$	22.734 (m ²)
	Σ =	62.5 (m ²)

塗替え塗装工

形状・寸法

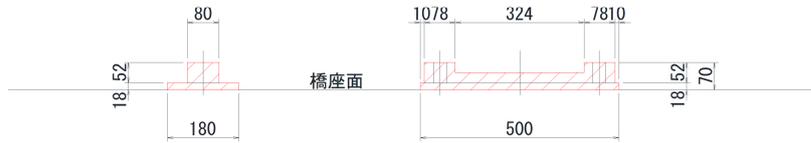


種類	算式	数量
塗替え塗装工 鋼製橋脚(B階段)	<p>塗装仕様: 超遮塩性塩害対策塗装系 素地調整: 2種ケレン(湿式塗膜剥離剤)</p> <p>施工条件: 屋間足場施工 P8、P9橋脚</p>	
梁 上面	$A1 = 0.320 \times 3.120 \times 2 = 1.997 \text{ m}^2$	1.997 (m ²)
梁 下面	$A2 = 0.320 \times 1.296 \times 2 \times 2 = 1.659 \text{ m}^2$	1.659 (m ²)
梁 断面	$A3 = (0.300 + 0.500) \times 1.282 / 2 \times 2 \times 2 \times 2 = 4.102 \text{ m}^2$	4.102 (m ²)
柱 周り	$\varnothing = \pi \times 0.559 = 1.756 \text{ m}$	1.756 m
	$A4 = 1.756 \times 2.883 \times 2 = 10.126 \text{ m}^2$	10.126 (m ²)
	$\Sigma =$	17.9 (m ²)
	鋼製橋脚 合計	80.38 (m ²)

塗替え塗装工

形状・寸法

主桁用支承 S=1:10
(12基)

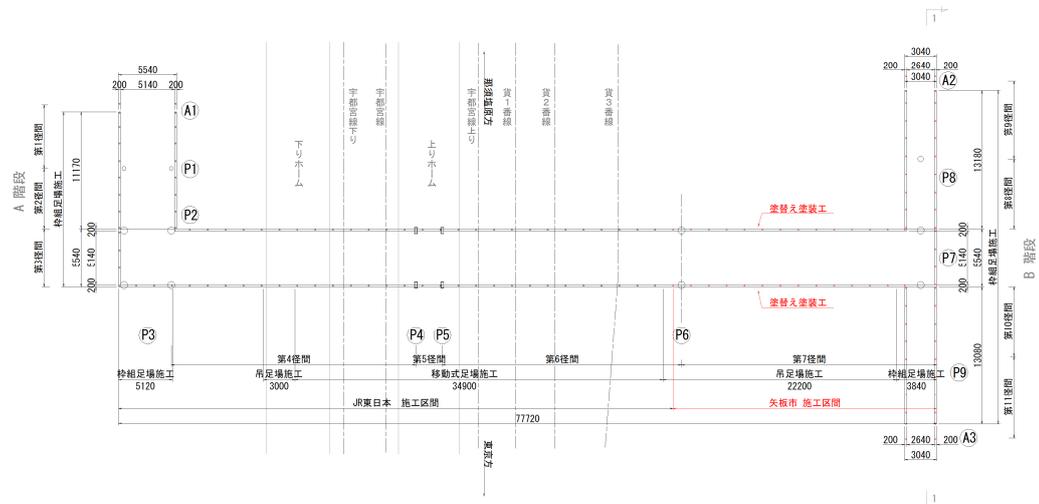


1基当り : A=0.07m²

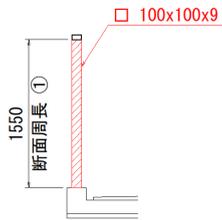
種類	算式	数量															
塗替え塗装工 支承	<p style="text-align: right;">N=</p> <p>施工条件: 屋間足場施工 塗装仕様: 超遮塩性塩害対策塗装系 素地調整: 2種ケレン(湿式塗膜剥離剤)</p> <p>A= 0.070 × 12 = 0.840 m²</p> <p style="text-align: center;">塗替え塗装工 数量表</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>1基当り面積 (m²)</th> <th>個数</th> <th>数量 (m²)</th> <th>摘要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>支承</td> <td>0.07</td> <td>12</td> <td>0.84</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">合計 (m²)</td> <td>12</td> <td>0.84</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	項目	1基当り面積 (m ²)	個数	数量 (m ²)	摘要	支承	0.07	12	0.84		合計 (m ²)		12	0.84		<p style="text-align: right;">12 (箇所)</p> <p style="text-align: right;">0.84 (m²)</p>
項目	1基当り面積 (m ²)	個数	数量 (m ²)	摘要													
支承	0.07	12	0.84														
合計 (m ²)		12	0.84														

塗替え塗装工

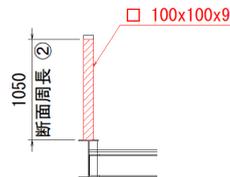
形状・寸法



跨線部



B階段部



支柱 □100x100x9



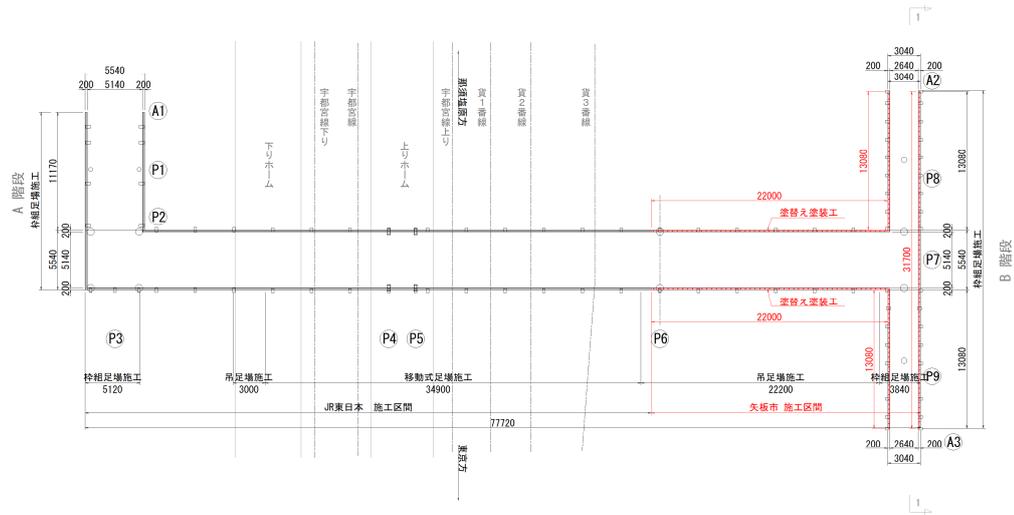
断面周長 ① : L=0.4m

断面周長 ② : L=0.4m

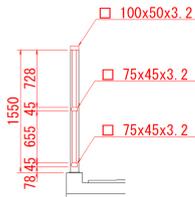
種類	算式	数量				
塗替え塗装工						
高欄支柱	<p>塗装仕様: 超遮塩性塩害対策塗装系 素地調整: 2種ケレン(湿式塗膜剥離剤)</p> <p>施工条件: 屋間足場施工</p> <p>跨線部</p> <p>A1= 0.400 × 1.550 × 26 = 16.120 m² 16.120 (m²)</p> <p>A2= 0.400 × 1.550 × 6 = 3.720 m² 3.720 (m²)</p> <p style="text-align: right;">Σ = 19.84 (m²)</p> <p>B階段</p> <p>A3= 0.400 × 1.050 × 40 = 16.800 m² 16.800 (m²)</p>					
塗替え塗装工 数量表						
項目	断面周長 (m)	延長 (m)	個数	数量 (m ²)	足場区分	摘要
高欄支柱	0.4	1.55	26	16.1	吊足場	
高欄支柱	0.4	1.55	6	3.7	桃組足場	
高欄支柱	0.4	1.05	40	17.6	桃組足場	
合計				37.4		

塗替え塗装工

形状・寸法

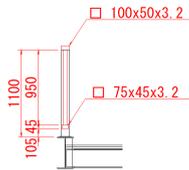


跨線部



FB L=728+655=1383

B階段部



FB L=950

笠木 □100x50x3.2



断面周長 ① : L=0.3m

笠木 □75x45x3.2



断面周長 ② : L=0.24m

縦棧 FB 50x9



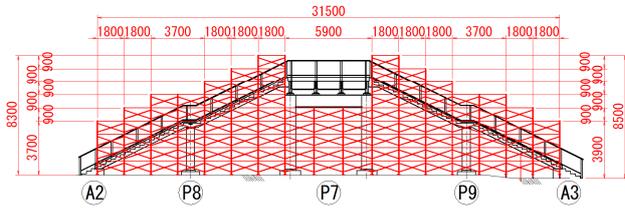
断面周長 ③ : L=0.12m

種類	算式	数量																																										
塗替え塗装工 高欄笠木・縦棧	<p>塗装仕様: 超遮塩性塩害対策塗装系 素地調整: 2種ケレン(湿式塗膜剥離剤)</p> <p>施工条件: 屋間足場施工</p> <p>① 笠木 □100x50x3.2 $A1 = 0.300 \times 101.860 \times 1 = 30.558 \text{ m}^2$ 30.56 (m²)</p> <p>② 笠木 □75x45x3.2 $A2 = 0.240 \times 145.860 \times 1 = 35.006 \text{ m}^2$ 35.01 (m²)</p> <p>③ 縦棧 FB 50x9 $A3 = 0.120 \times 1.380 \times 234 = 38.750 \text{ m}^2$ 38.75 (m²)</p> <p>④ 縦棧 FB 50x9 $A4 = 0.120 \times 0.950 \times 331 = 37.734 \text{ m}^2$ 37.73 (m²)</p> <p style="text-align: right;">Σ = 76.48 (m²)</p>																																											
<p>塗替え塗装工 数量表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>断面周長 (m)</th> <th>延長 (m)</th> <th>個数</th> <th>数量 (m²)</th> <th>足場区分</th> <th>摘要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高欄笠木 □100x50x3.2</td> <td>0.3</td> <td>101.86</td> <td>1</td> <td>30.6</td> <td>吊足場、枠組足場</td> <td></td> </tr> <tr> <td>高欄笠木 □75x45x3.2</td> <td>0.24</td> <td>145.86</td> <td>1</td> <td>35.0</td> <td>吊足場、枠組足場</td> <td></td> </tr> <tr> <td>高欄縦棧 FB 50x9</td> <td>0.12</td> <td>1.38</td> <td>234</td> <td>38.8</td> <td>吊足場、枠組足場</td> <td>跨線部</td> </tr> <tr> <td>高欄縦棧 FB 50x9</td> <td>0.12</td> <td>0.95</td> <td>331</td> <td>37.7</td> <td>枠組足場</td> <td>B階段部</td> </tr> <tr> <td colspan="4" style="text-align: center;">合計</td> <td>142.1</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			項目	断面周長 (m)	延長 (m)	個数	数量 (m ²)	足場区分	摘要	高欄笠木 □100x50x3.2	0.3	101.86	1	30.6	吊足場、枠組足場		高欄笠木 □75x45x3.2	0.24	145.86	1	35.0	吊足場、枠組足場		高欄縦棧 FB 50x9	0.12	1.38	234	38.8	吊足場、枠組足場	跨線部	高欄縦棧 FB 50x9	0.12	0.95	331	37.7	枠組足場	B階段部	合計				142.1		
項目	断面周長 (m)	延長 (m)	個数	数量 (m ²)	足場区分	摘要																																						
高欄笠木 □100x50x3.2	0.3	101.86	1	30.6	吊足場、枠組足場																																							
高欄笠木 □75x45x3.2	0.24	145.86	1	35.0	吊足場、枠組足場																																							
高欄縦棧 FB 50x9	0.12	1.38	234	38.8	吊足場、枠組足場	跨線部																																						
高欄縦棧 FB 50x9	0.12	0.95	331	37.7	枠組足場	B階段部																																						
合計				142.1																																								

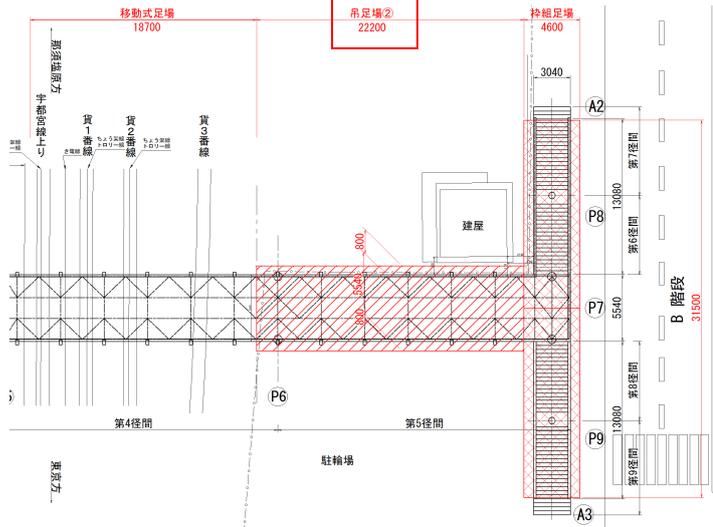
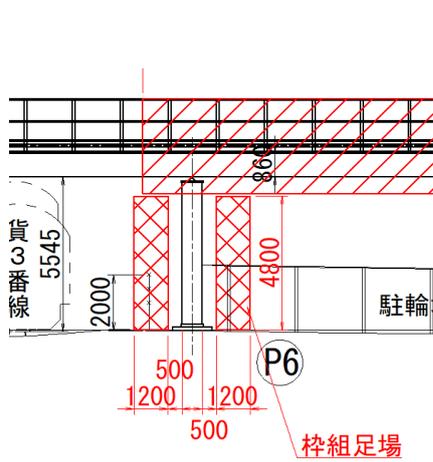
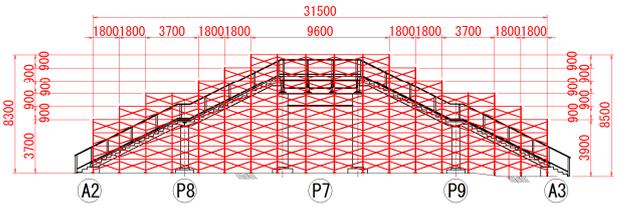
足場設置撤去工

形状・寸法

3-3階段側面図 S=1:200



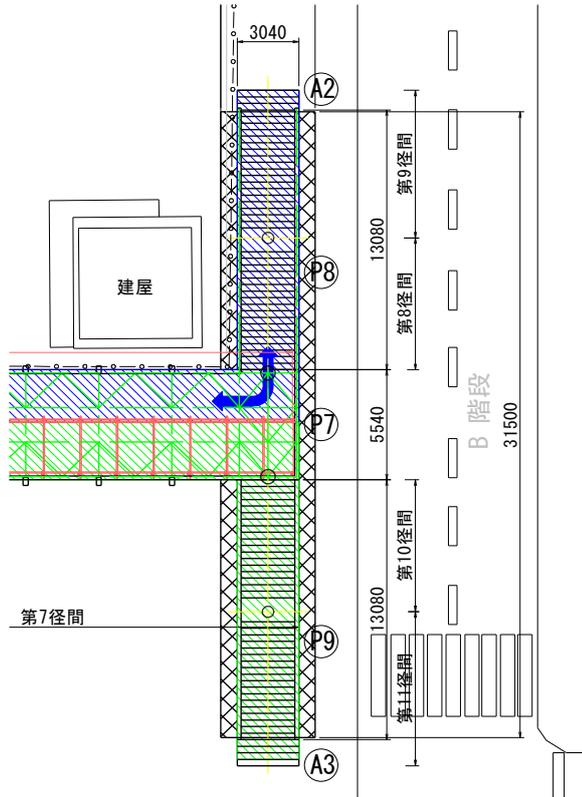
4-4階段側面図 S=1:200



種類	算式	数量
足場設置撤去工		
樁組足場(A2側)	樁組足場(足場計画図:3-3階段側面図)	
	3.8 x 31.5 = 119.7 m ²	
	0.9 x 27.9 = 25.1 m ²	
	0.9 x 9.1 x 2 = 16.4 m ²	
	0.9 x 5.4 x 2 = 9.7 m ²	
	0.9 x 3.6 x 2 = 6.5 m ²	
	0.9 x 1.8 x 2 = 3.2 m ²	
	Σ 180.6 m ²	
	樁組足場(足場計画図:4-4階段側面図)	
	3.8 x 31.5 = 119.7 m ²	
	0.9 x 27.9 = 25.1 m ²	
	0.9 x 24.3 = 21.9 m ²	
	0.9 x 16.8 = 15.1 m ²	
	0.9 x 13.2 = 11.9 m ²	
	0.9 x 9.6 = 8.6 m ²	
	Σ 202.3 m ²	
	Σ = 382.9 (掛m ²)	
樁組足場(P6部)	樁組足場	
	4.8 x 7.14 x 2 = 68.5 m ²	
	Σ = 68.5 (掛m ²)	
吊足場	吊足場	
	22.2 x 7.14 = 158.5 m ²	
	Σ = 158.5 m ²	
	両側朝顔防護足場	
	22.2 x 4.218 x 2 = 187.3 m ²	
	Σ = 187.3 m ²	

仮設防護工

形状・寸法



種類	算式	数量
仮囲い設置撤去工 B階段	$13.08 \times 2 = 26.2 \text{ m}^2$	26.2 m ²

環境対策・安全対策資機材

工種	種別	細別	規格	単位	数量	摘要				
安全衛生保護具	施工者用	3名施工想定	電動ファン付き呼吸保護具	個	3					
			呼吸フィルター、化学防護服 防護手袋、シューズカバー	セット	576					
	監督員用	2名想定	電動ファン付き呼吸保護具	個	2					
			呼吸フィルター、化学防護服 防護手袋、シューズカバー	セット	4					
環境対策資機材	負圧集塵機		負圧集塵機:30m3/min	台・月	4					
			環境システム料	台・式	2					
			1次フィルター	枚	86					
			2次フィルター	枚	18					
			活性炭交換ろ材	枚	2					
			HEPAフィルター	枚	2					
			吸気側ペットクリアダクト (φ250×10m)	本	2					
			ダクトバンド (φ275)	個	2					
			排気用ダクト (0.1×500×100m φ300)	本	2					
			ダクトバンド (φ300)	個	2					
	エアシャワー			エアシャワー	台・月	2				
				環境システム料	台・式	1				
				1次フィルター	枚	8				
				HEPAフィルター	枚	1				
				コンプレッサー	台・月	2				
				環境システム料	台・式	1				
				エアホース (ジョイント付 10.0m)	本・月	2				
				真空掃除機			真空掃除機	台・月	2	
							環境システム料	台・式	1	
							1次フィルター	枚	8	
HEPAフィルター	枚	1								
セキュリティルーム			簡易型セキュリティルーム	式	1					

処分材料

形状・寸法

塗 装 記 録 表		
塗装年月	平成 1 3 年 1 2 月	
塗 装 会 社	下 塗	建設塗装工業株式会社
	中塗一層	
	中塗二層	建設塗装工業株式会社
塗 装 材 料	上 塗	
	下 塗	厚膜型変性エポキシ樹脂系塗料下塗
	中塗一層	厚膜型変性エポキシ樹脂系塗料中塗
	中塗二層	厚膜型変性エポキシ樹脂系塗料中塗
塗 料 製 造 会 社	上 塗	ポリウレタン樹脂塗料上塗
	下 塗	大日本塗料株式会社
	中塗一層	
	中塗二層	大日本塗料株式会社
	上 塗	

塗装系	旧塗膜塗装系	素地調整	工 程	規 格	塗 料 名	大日本塗料該当品	塗回数	標準使用量 g/m ² /回(塗装方法)	参考塗膜厚 μm/回	塗装間隔 (20℃)※1	
T-7	B、D G、T E	替ケレン-4	現場 素地調整	SPS 66099-12	ペーパーがけ		1	200(※10-7)	—	その日のうち 24H ~ 7D	
			第1層(補修)	◇	厚膜型変性エポキシ樹脂系塗料	エポオール#40HB	1	200(◇)	—	24H ~ 7D	
			第2層(補修)	◇	◇	エポオール#40HB	1	200(◇)	60	24H ~ 7D	
			第3層	◇	◇	エポオール#40HB	1	200(◇)	60	24H ~ 7D	
		第4層	SPS 66099-21	厚膜型ポリウレタン樹脂塗料上塗	VトップH上塗T-7 SPS	1	150(◇)	50			
		替ケレン-2,3	現場 素地調整	SPS 66099-12	除精度-3(ISO C St3)			1	200(※10-7)	—	その日のうち 24H ~ 7D
			第1層(補修)	◇	厚膜型変性エポキシ樹脂系塗料	エポオール#40HB	1	200(◇)	60	24H ~ 7D	
			第2層	◇	◇	エポオール#40HB	1	200(◇)	60	24H ~ 7D	
第3層	◇		◇	エポオール#40HB	1	200(◇)	60	24H ~ 7D			
第4層	SPS 66099-21	厚膜型ポリウレタン樹脂塗料上塗	VトップH上塗T-7 SPS	1	150(◇)	50					

種 類	算 式	数 量
剥離剤及び旧塗膜	矢板市施工範囲 湿式剥離剤工法(2種ケレン)	Σ A = 824.50 m ²
	下塗り : 厚膜型変性エポキシ樹脂系塗料 使用量: 0.2 kg/m ² /回 1 回塗り V = 0.2 x 824.5 x 1	164.9 kg
	中塗り1層 : 厚膜型変性エポキシ樹脂系塗料 使用量: 0.2 kg/m ² /回 1 回塗り V = 0.2 x 824.5 x 1	164.9 kg
	中塗り2層 : 厚膜型変性エポキシ樹脂系塗料 使用量: 0.2 kg/m ² /回 1 回塗り V = 0.2 x 824.5 x 1	164.9 kg
	上塗り : 厚膜型ポリウレタン樹脂塗料 使用量: 0.15 kg/m ² /回 1 回塗り V = 0.15 x 824.5 x 1	123.7 kg
	塗膜剥離剤(ネオリバー泥パックtype II 相当) 使用量: 1.0 kg/m ² /回 1 回塗り V = 1.0 x 824.5 x 1	824.5 kg
		V = 1442.9 kg
	200kgオープンドラム缶の個数 1442.9 kg / 200 kg = 8 (缶)	8(缶)

処分材料

形状・寸法



化学防護服(マイクロガード2000)



安全衛生保護具
呼吸フィルター
化学防護服
防護手袋
シューズカバー

※これらの数量は概略工程に基づいた想定数量である。工事発注の際に数量が変動する可能性が有ることに留意する事。

種類	算式	数量
安全衛生保護具	前述の安全衛生保護具の数量より ○施工者用 ・電動ファン付き呼吸用保護具 ・呼吸フィルター、化学防護服、防護手袋、シューズカバー（各保護具1個毎で1セット） ○監督員用 ・電動ファン付き呼吸用保護具 ・呼吸フィルター、化学防護服、防護手袋、シューズカバー（各保護具1個毎で1セット）	3 個 576 セット 2 個 4 セット 計 5 個 580 セット
環境対策資機材	負圧集塵機 ・1次フィルター ・2次フィルター ・活性炭交換ろ材、HEPAフィルター エアシャワー ・1次フィルター ・HEPAフィルター セキュリテールーム ・1次フィルター ・HEPAフィルター なお、これらの数量は概略工程に基づいた想定数量である。 工事発注の際に数量が変動する可能性が有ることに留意する事。	86 枚 18 枚 2 枚 8 枚 1 枚 8 枚 1 枚

設 計 図 面

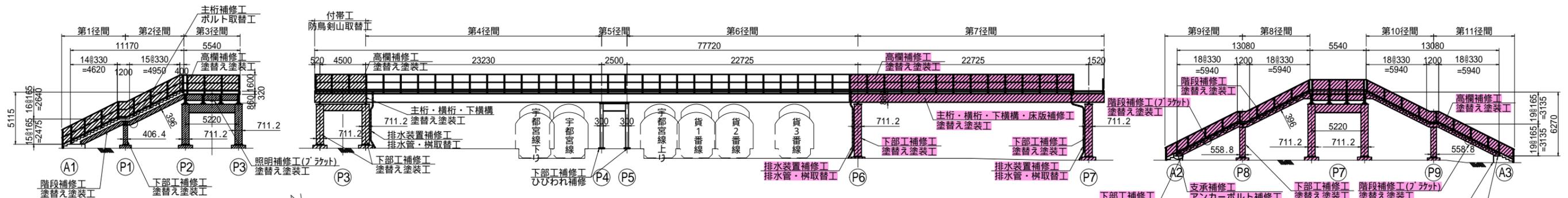
工事名	橋梁補修工事(矢板駅構内跨線人道橋)
路線名	市道扇町・末広町1号歩行者道
箇所名	矢板市扇町一丁目地内

矢板駅構内跨線人道橋 補修一般図

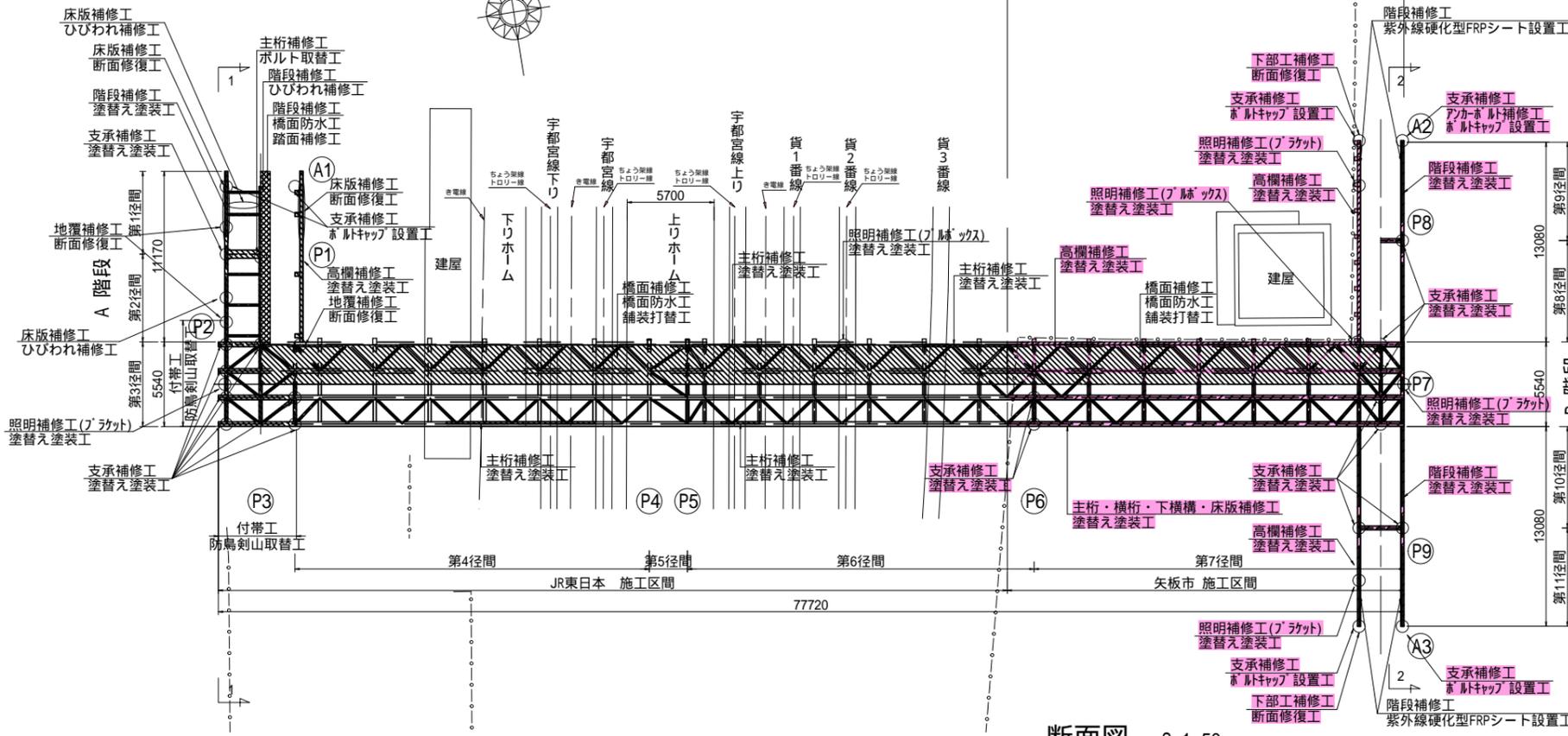
1 - 1 S=1:200

側面図 S=1:200

2 - 2 S=1:200



平面図 S=1:200 橋梁補修工事 矢板駅構内跨線人道橋 L=26.0m

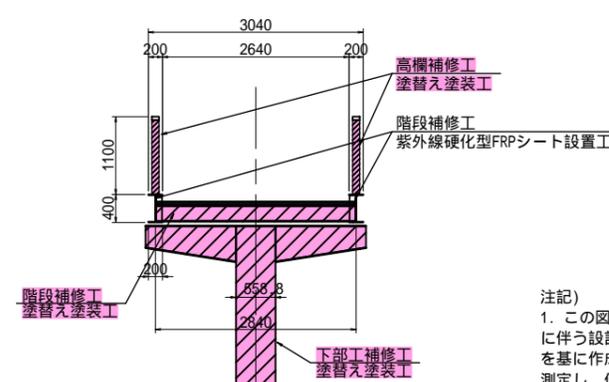
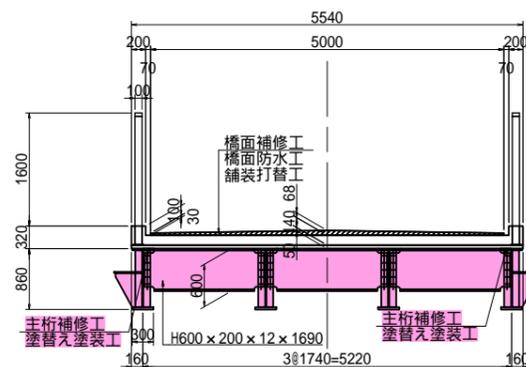
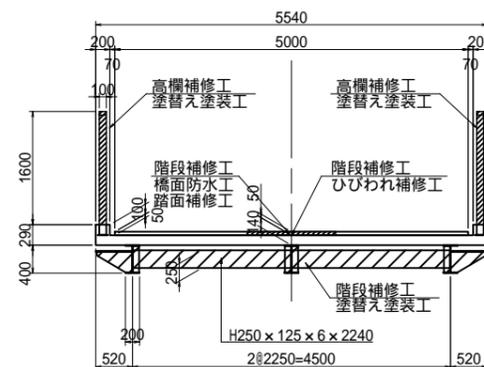


断面図 S=1:50

A階段部

跨線部

B階段部



補修内容一覧表

《JR東日本施工》

項目	細目	摘要(補修箇所等)	備考
塗替え塗装工		第1~3径間	主部材: 主桁、横桁、下横構、鋼製橋脚、階段 副部材: 支承、高欄、照明施設(プラケット)
		第4径間, 第6径間	主部材: 主桁上フランジ
主桁補修工	ボルト取替工	第2径間	TCB(S10T)
床版補修工	断面修復工	第1、2径間	左官工法
下部工補修工	ひびわれ補修工	第1、2径間	ひびわれ注入工
支承補修工	ボルトキャップ設置工	A1橋台部	M22ダブルナット用
排水装置補修工	排水管取替工	P3橋脚部	VP管
		P3橋脚部	FRP製
付帯工	防鳥剣山取替工	第2~3径間	

《矢板市施工》

項目	細目	摘要(補修箇所等)	備考
塗替え塗装工		第6~11径間	主部材: 主桁、横桁、下横構、鋼製橋脚、階段 副部材: 支承、高欄、照明施設(プラケット・ブルボックス)
地覆補修工	断面修復工	第1~3径間	左官工法
下部工補修工	断面修復工	A2、A3橋台	左官工法
橋面補修工	橋面防水工	第3~7径間	高浸透型複合防水
		第3~7径間	
支承補修工	アンカーボルト補修工	A2橋台部	
		A2、A3橋台部	M22ダブルナット用
階段補修工	ひびわれ補修工	A階段	ひびわれ注入工
	踏面補修工	A階段	防滑性塩ビ階段用シート
	橋面防水工	A階段	ウレタン塗膜防水
	紫外線硬化型FRPシート設置工	B階段	阿南電機㈱ウルトラパッチ相当品
排水装置補修工	排水管取替工	P6、P7橋脚部	VP管
		P6、P7橋脚部	FRP製

実施

工事名	橋梁補修工事(矢板駅構内跨線人道橋) 市道扇町・末広町1号歩行者道 矢板市扇町一丁目地内		
図面名	補修一般図		
作成年月日			
縮尺	図示	図面番号	1 / 13
会社名			
事務所名	栃木県 矢板市役所		

注記

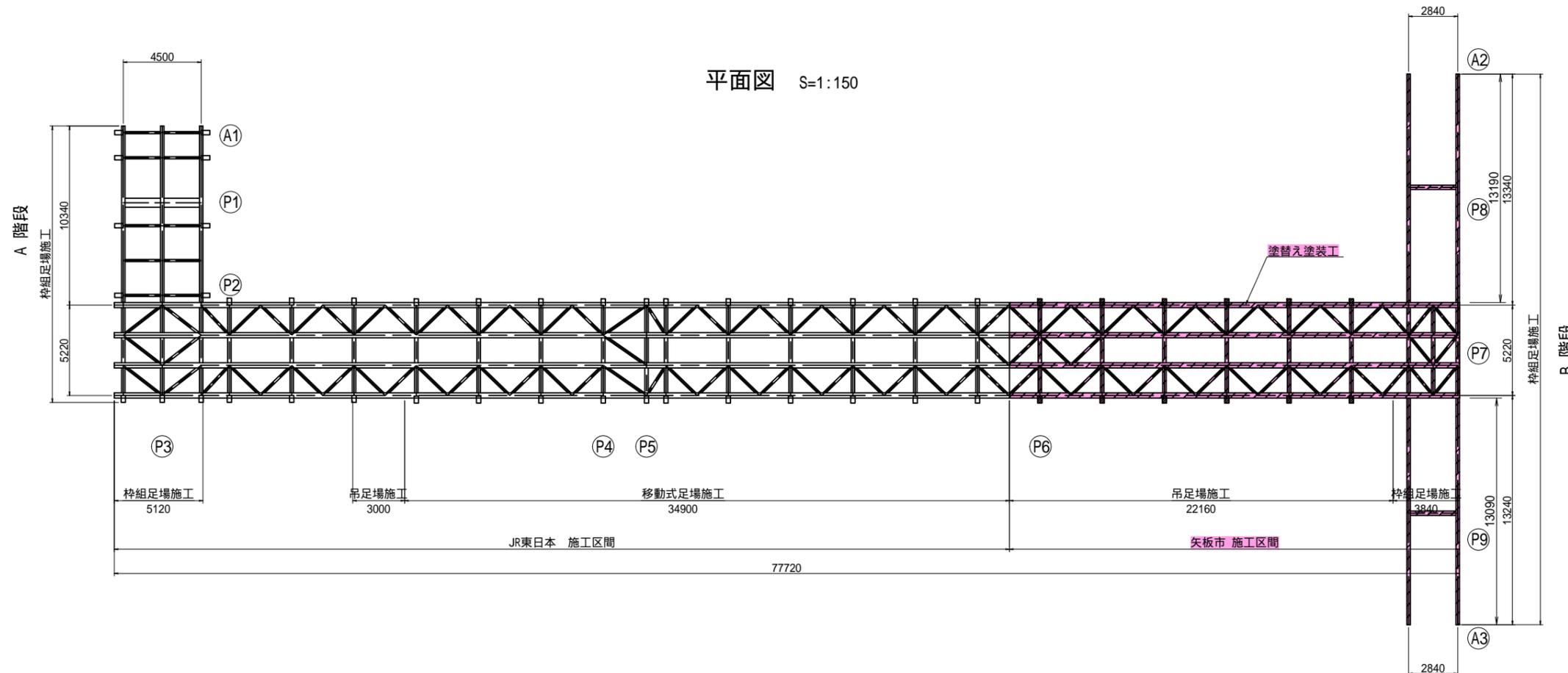
1. この図面は「昭和53年 矢板駅構内こ線人道橋新設に伴う設計 設計図」及び現地調査、地上レーザ測量を基に作成したものである。工事の際には寸法形状を測定し、使用すること。

--- 用地境界線

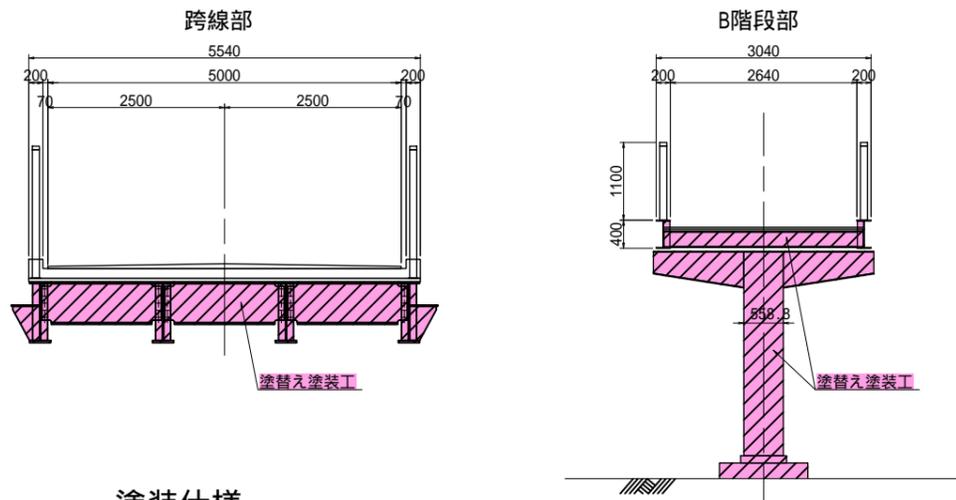
赤: JR東日本 施工

青: 矢板市 施工

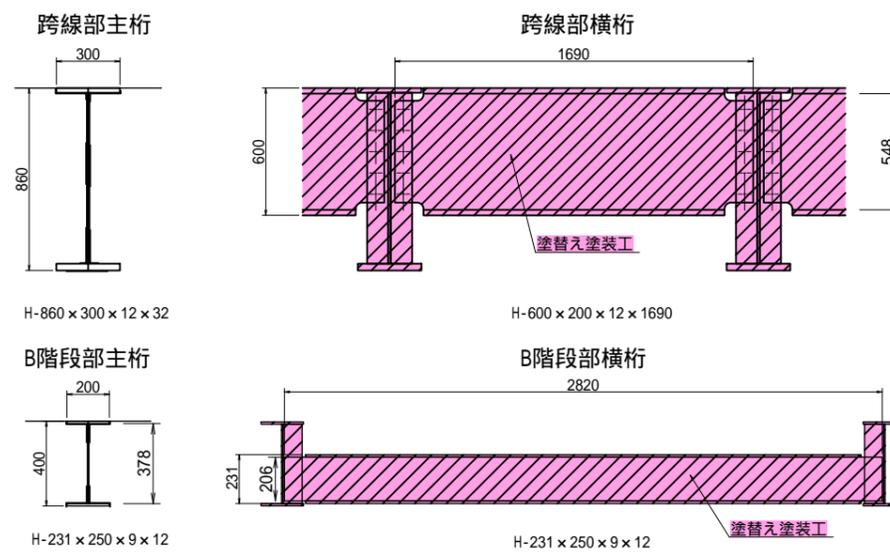
矢板駅構内跨線人道橋 塗替え塗装工図(その1)



断面図 S=1:50



塗装区分図



塗装仕様

超遮塩性塩害対策塗装系: 2種ケレン (はけ・ローラー)

塗層	塗料名	膜厚 (μm)	使用量 (g/m ²)
素地調整	2種		
防食下地	耐塩害用有機ジンクリッチペイント	37.5 (30)	300 (240)
防食下地	耐塩害用有機ジンクリッチペイント	37.5 (30)	300 (240)
下塗	耐塩害用変性エポキシ樹脂塗料(下塗り)	70	200
下塗	耐塩害用変性エポキシ樹脂塗料(下塗り)	70	200
上塗	耐塩害用厚膜形ふっ素樹脂上塗塗料	60	190
	耐塩害用厚膜形ふっ素樹脂上塗塗料	60 μm	190g/m ²
	耐塩害用変性エポキシ樹脂塗料(下塗り)	70 μm	200g/m ²
	耐塩害用変性エポキシ樹脂塗料(下塗り)	70 μm	200g/m ²
	耐塩害用有機ジンクリッチペイント	37.5 μm	300g/m ²
	耐塩害用有機ジンクリッチペイント	37.5 μm	300g/m ²

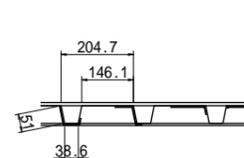
1 旧塗膜除去及び素地調整は以下のとおりとする。
湿式塗膜剥離剤(水系) + 2種ケレン

超遮塩性塩害対策塗装系: 2種ケレン

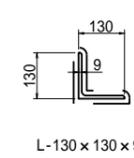
塗装工程	塗料名	膜厚 (μm)	使用量 (g/m ²)	塗装間隔
素地調整	2種			4時間以内
防食下地	耐塩害用有機ジンクリッチペイント	37.5 (30)	300 (240)	1日?6ヶ月
防食下地	耐塩害用有機ジンクリッチペイント	37.5 (30)	300 (240)	
下塗	耐塩害用変性エポキシ樹脂塗料(下塗り)	70	200	1日?30日
下塗	耐塩害用変性エポキシ樹脂塗料(下塗り)	70	200	
上塗	耐塩害用厚膜形ふっ素樹脂上塗塗料	60	190	

2 素地調整程度2種ではあるが、健全なジンクリッチプライマーやジンクリッチペイントを残し、ほかの旧塗膜を全面除去した場合は、鋼材露出部のみ有機ジンクリッチペイントを塗布する。この際、使用量の目安は240g/m²程度とする。素地調整程度2種で旧塗膜を全面除去した場合は、有機ジンクリッチペイントの使用量が600g/m²とする。

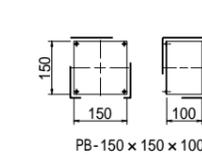
デッキプレート



下横構



ブルボックス(参考)



注記

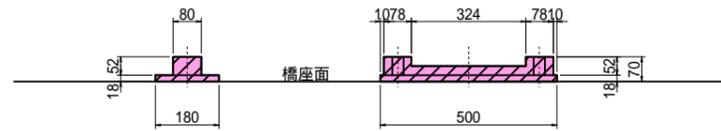
- この図面は「昭和53年 矢板駅構内跨線人道橋新設に伴う設計設計図」及び現地調査、地上レーザ測量を基に作成したものである。工事の際には寸法形状を測定し、使用すること。
- 旧塗膜の有害物質含有調査より、105,000mg/kgの鉛が含有している結果となっている。塗替え作業においては「鉛中毒予防規則」が摘要されることに留意し、「鉛等有害物を含有する塗料の剥離やかき落とし作業における労働者の健康障害防止について(厚生労働省通知)」の配慮が必要である。また、溶出試験の結果、1.82mg/?の溶出量が確認されたため、旧塗膜は「特別管理産業廃棄物」として処理しなければならない。
- 湿式塗膜剥離剤の仕様・塗布回数については、試験施工を行い、監督員と協議の上決定すること。
- 塗装仕様は、超遮塩性塩害対策塗装系(NETIS:KT-220199-A)同等品以上とする。
- 塗装の色調は監督員と協議の上決定すること。
- 照明ブラケットの寸法形状が不明であるため、施工時に寸法形状を確認の上、施工数量に反映すること。

実施

工事名	橋梁補修工事(矢板駅構内跨線人道橋) 市道扇町・末広町1号歩行者道 矢板市扇町一丁目地内		
図面名	塗替え塗装工図(その1)		
作成年月日			
縮尺	図示	図面番号	2 / 13
会社名			
事務所名	栃木県 矢板市役所		

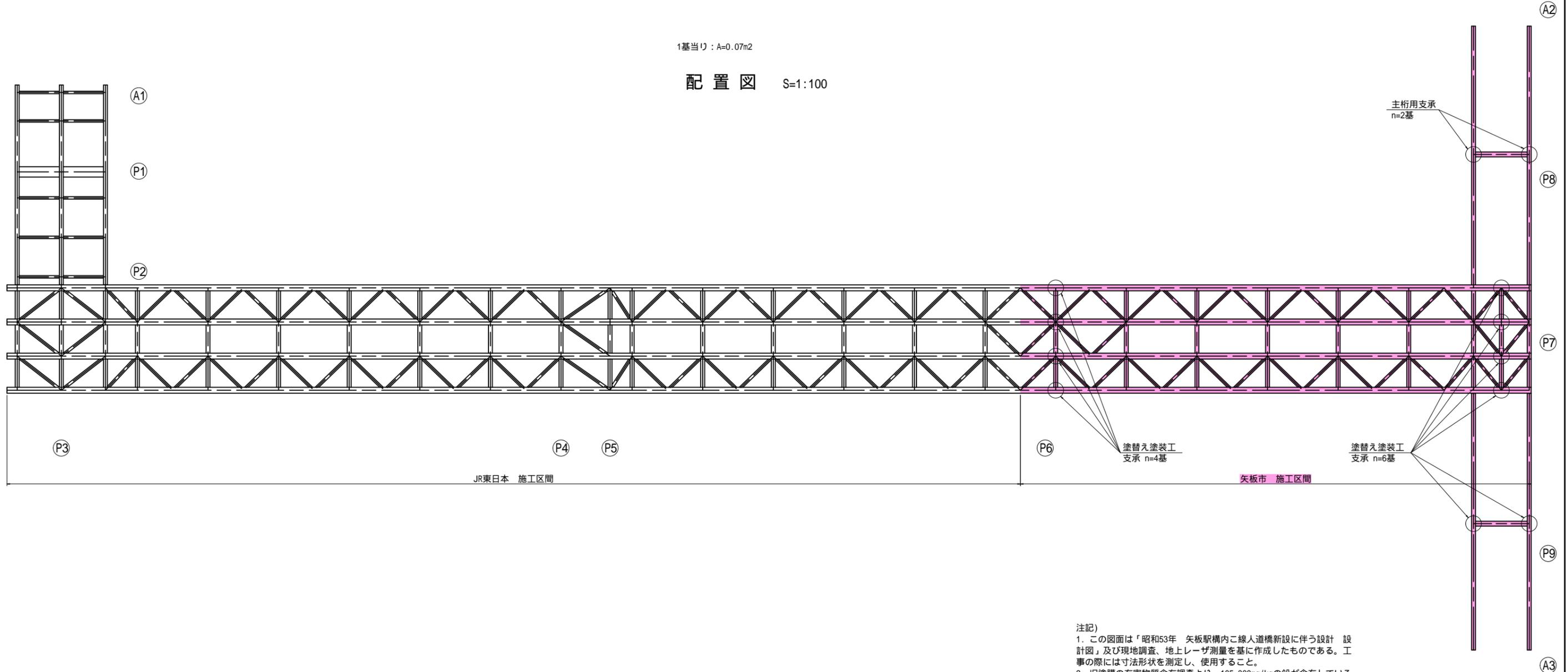
矢板駅構内跨線人道橋 塗替え塗装工図(その2)

支承断面図 S=1:10
(12基)



1基当り : A=0.07m²

配置図 S=1:100



注記)

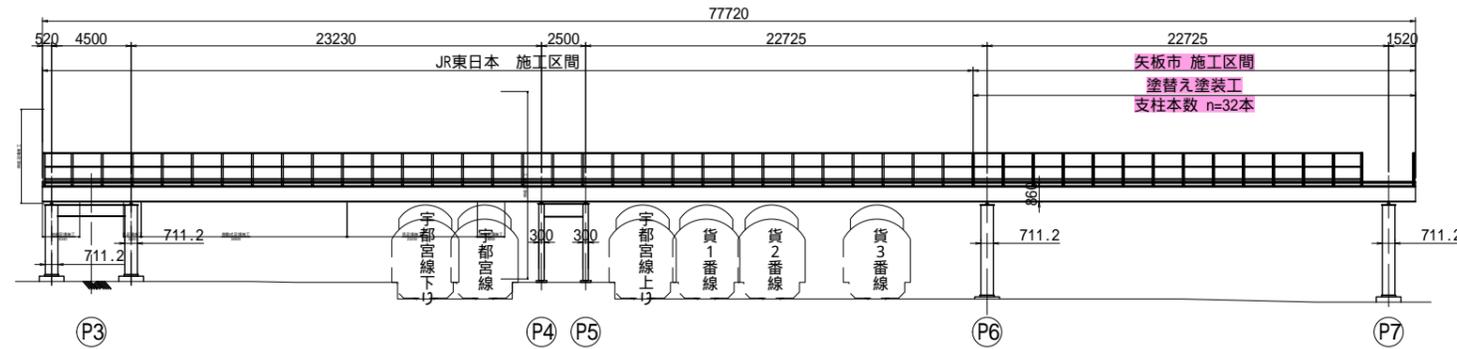
- この図面は「昭和53年 矢板駅構内跨線人道橋新設に伴う設計 設計図」及び現地調査、地上レーザ測量を基に作成したものである。工事の際には寸法形状を測定し、使用すること。
- 旧塗膜の有害物質含有調査より、105,000mg/kgの鉛が含有している結果となっている。塗替え作業においては「鉛中毒予防規則」が摘要されることに留意し、「鉛等有害物を含有する塗料の剥離やかき落とし作業における労働者の健康障害防止について（厚生労働省通知）」の配慮が必要である。また、溶出試験の結果、1.82mg/?の溶出量が確認されたため、旧塗膜は「特別管理産業廃棄物」として処理しなければならない。
- 湿式塗膜剥離剤の仕様・塗布回数については、試験施工を行い、監督員と協議の上決定すること。
- 塗装仕様は、超遮塩性塩害対策塗装系(NETIS:KT-220199-A)同等品以上とする。
- 塗装の色調は監督員と協議の上決定すること。

実施

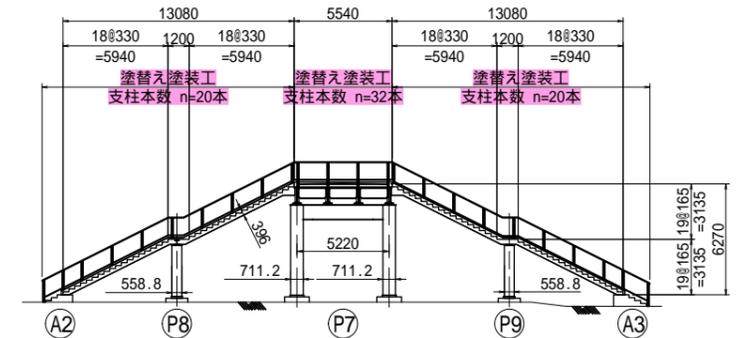
工事名	橋梁補修工事(矢板駅構内跨線人道橋) 市道扇町・末広町1号歩行者道 矢板市扇町一丁目地内		
図面名	塗替え塗装工図(その2)		
作成年月日			
縮尺	図示	図面番号	3 / 13
会社名			
事務所名	栃木県 矢板市役所		

矢板駅構内跨線人道橋 塗替え塗装工図(その3)

側面図 S=1:200

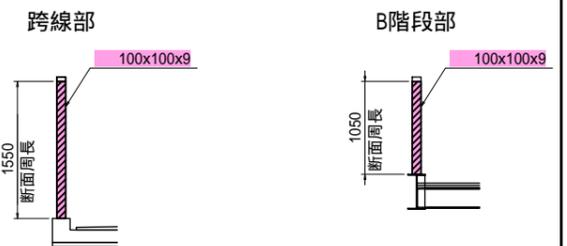
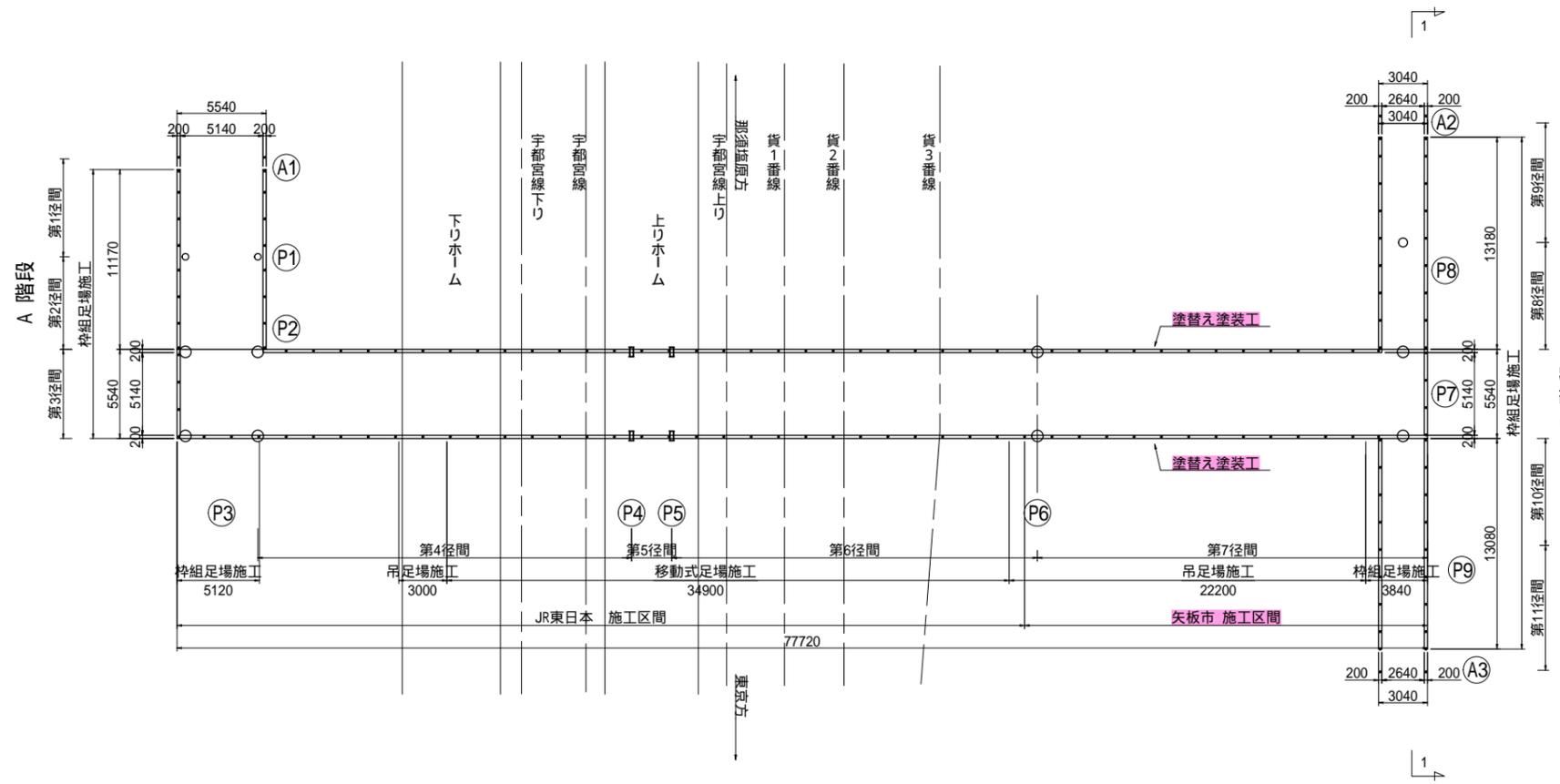


1 - 1 S=1:200



断面図 S=1:40

平面図 S=1:200



部材詳細図 S=1:20

支柱 100x100x9

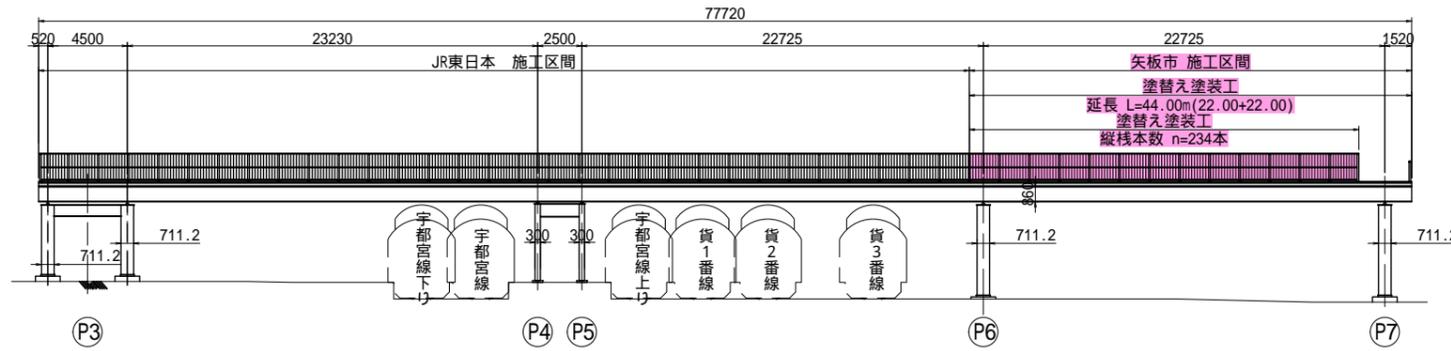
 断面周長 : L=0.4m
 断面周長 : L=0.4m

- 注記)
 1. この図面は「昭和53年 矢板駅構内こ線人道橋新設に伴う設計 設計図」及び現地調査、地上レーザ測量を基に作成したものである。工事の際には寸法形状を測定し、使用すること。
 2. 旧塗膜の有害物質含有調査より、105,000mg/kgの鉛が含有している結果となっている。塗替え作業においては「鉛中毒予防規則」が適用されることに留意し、「鉛等有害物を含有する塗料の剥離やかき落とし作業における労働者の健康障害防止について（厚生労働省通知）」の配慮が必要である。また、溶出試験の結果、1.82mg/?の溶出量が確認されたため、旧塗膜は「特別管理産業廃棄物」として処理しなければならない。
 3. 湿式塗膜剥離剤の仕様・塗布回数については、試験施工を行い、監督員と協議の上決定すること。
 4. 塗装仕様は、超遮塩性塩害対策塗装系(NETIS:KT-220199-A)同等品以上とする。
 5. 塗装の色調は監督員と協議の上決定すること。

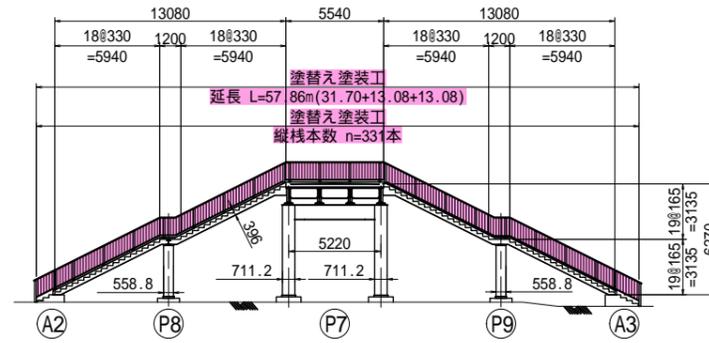
実施			
工事名	橋梁補修工事(矢板駅構内跨線人道橋)) 市道扇町・末広町1号歩行者道 矢板市扇町一丁目地内		
図面名	塗替え塗装工図(その3)		
作成年月日			
縮尺	図示	図面番号	4 / 13
会社名			
事務所名	栃木県 矢板市役所		

矢板駅構内跨線人道橋 塗替え塗装工図(その4)

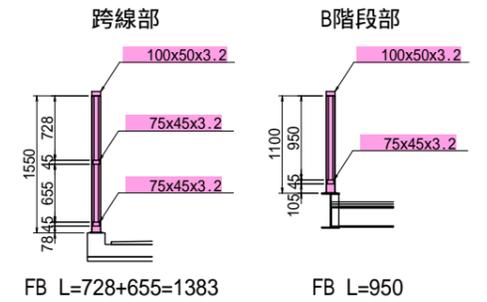
側面図 S=1:200



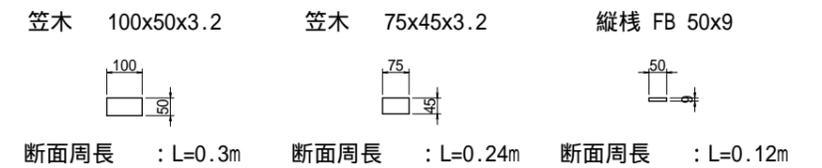
1 - 1 S=1:200



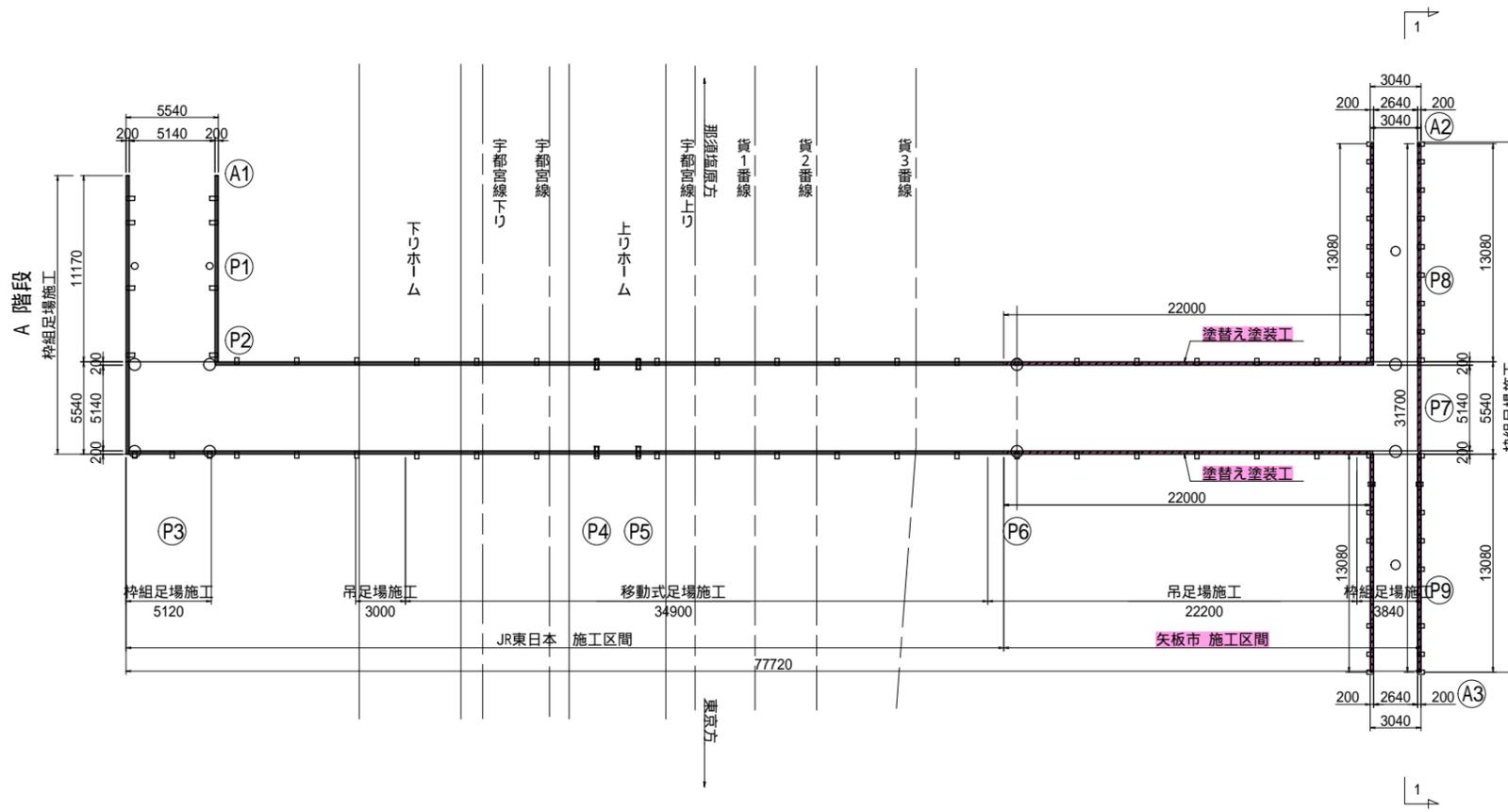
断面図 S=1:40



部材詳細図 S=1:10



平面図 S=1:200



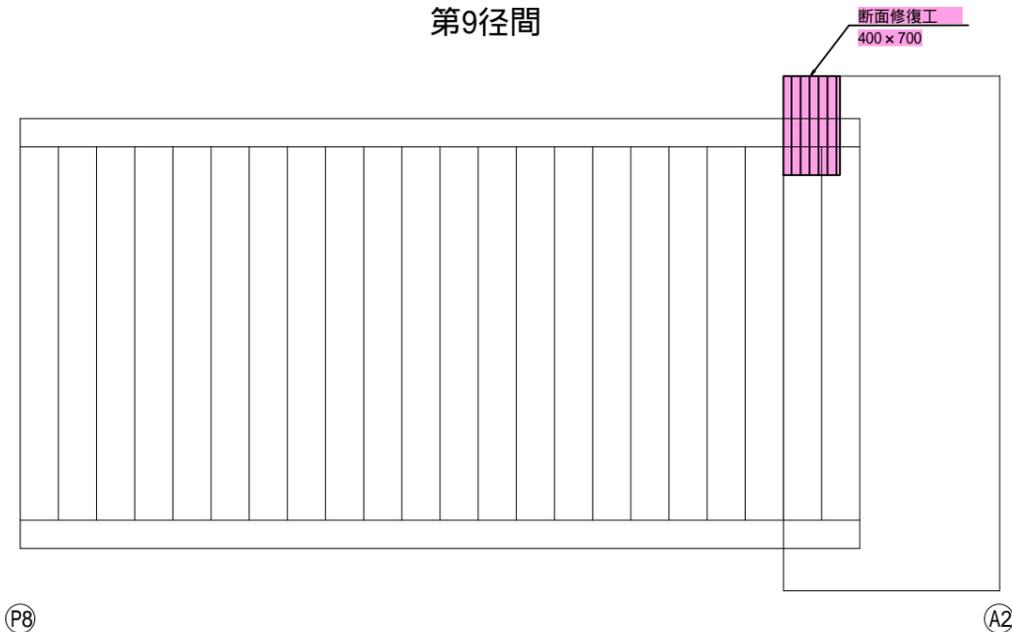
- 注記)
- この図面は「昭和53年 矢板駅構内跨線人道橋新設に伴う設計 設計図」及び現地調査、地上レーザ測量を基に作成したものである。工事の際には寸法形状を測定し、使用すること。
 - 旧塗膜の有害物質含有調査より、105,000mg/kgの鉛が含有している結果となっている。塗替え作業においては「鉛中毒予防規則」が摘要されることに留意し、「鉛等有害物を含有する塗料の剥離やかき落とし作業における労働者の健康障害防止について(厚生労働省通知)」の配慮が必要である。また、溶出試験の結果、1.82mg/?の溶出量が確認されたため、旧塗膜は「特別管理産業廃棄物」として処理しなければならない。
 - 湿式塗膜剥離剤の仕様・塗布回数については、試験施工を行い、監督員と協議の上決定すること。
 - 塗装仕様は、超遮塩性塩害対策塗装系(NETIS:KT-220199-A)同等品以上とする。
 - 塗装の色調は監督員と協議の上決定すること。

実施

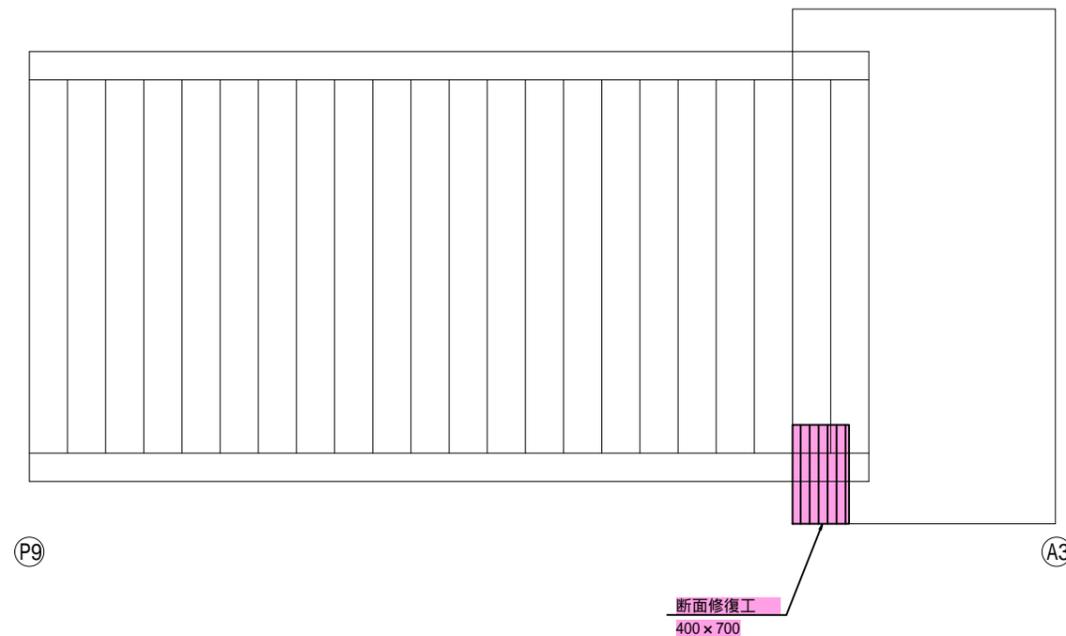
工事名	橋梁補修工事(矢板駅構内跨線人道橋) 市道扇町・未広町1号歩行者道 矢板市扇町一丁目地内		
図面名	塗替え塗装工図(その4)		
作成年月日			
縮尺	図示	図面番号	5 / 13
会社名			
事務所名	栃木県 矢板市役所		

矢板駅構内跨線人道橋 下部工補修工図

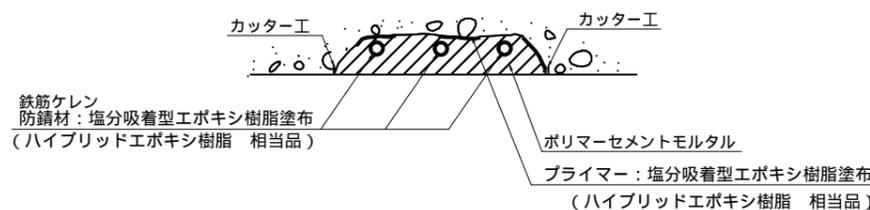
第9径間



第11径間

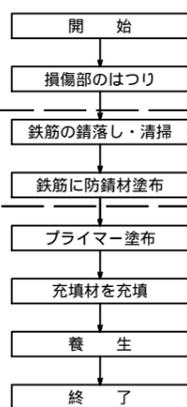


断面修復工
(左官工法)



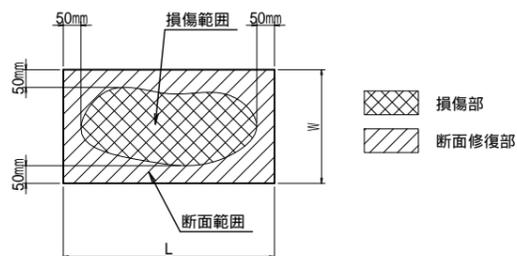
- 注) 1. はつり処理深さは鉄筋の裏側までとし、鉄筋を確実に露出させること。
 2. 鉄筋錆については、ワイヤブラシやディスクサンダーなどで確実に除去すること。
 3. 既設鉄筋はケレン後迅速に、防錆材を塗布すること。

施工フロー

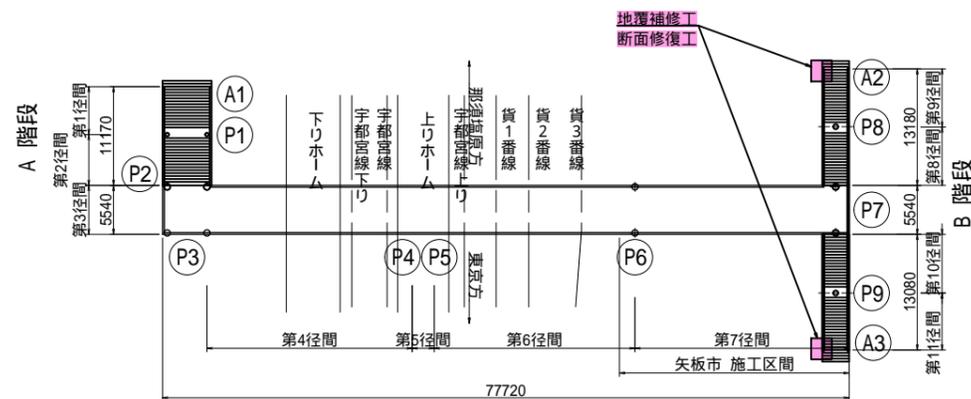


鉄筋が露出し、
発錆のある場合に実施する。

断面修復工 補修範囲図



位置図 S=1:400



- 注記)
 1. この図面は「昭和53年 矢板駅構内こ線人道橋新設に伴う設計 設計図」及び現地調査、地上レーザ測量を基に作成したものである。工事の際には寸法形状を測定し、使用すること。
 2. 損傷の位置・寸法は2020年度定期点検調査に基づいている。調査に詳細な位置・寸法の記載がない損傷については想定によるものである。

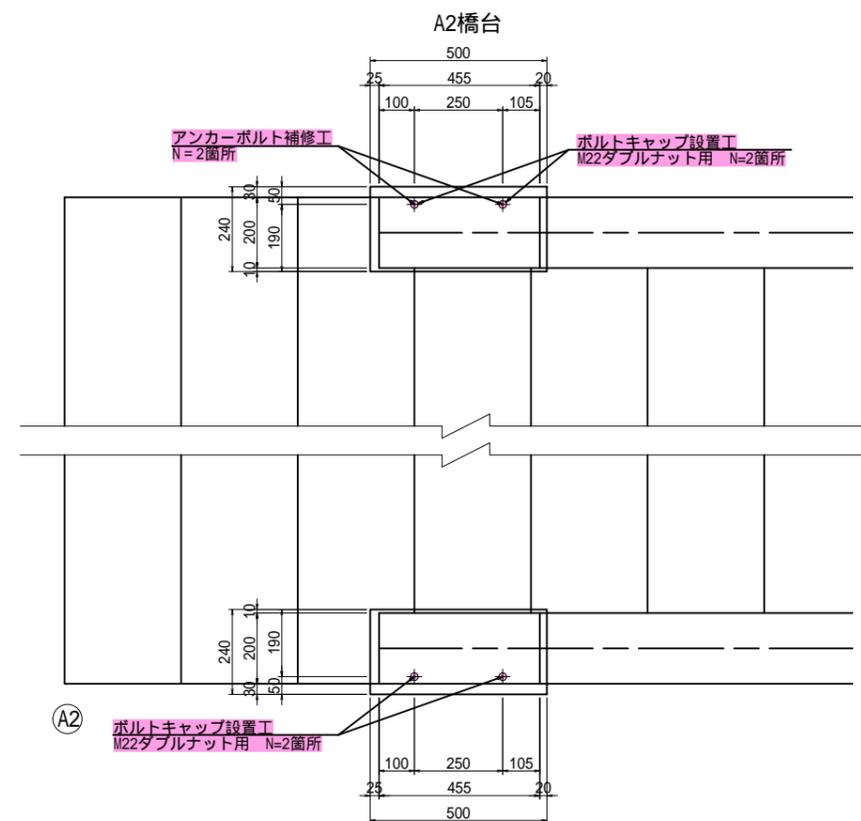
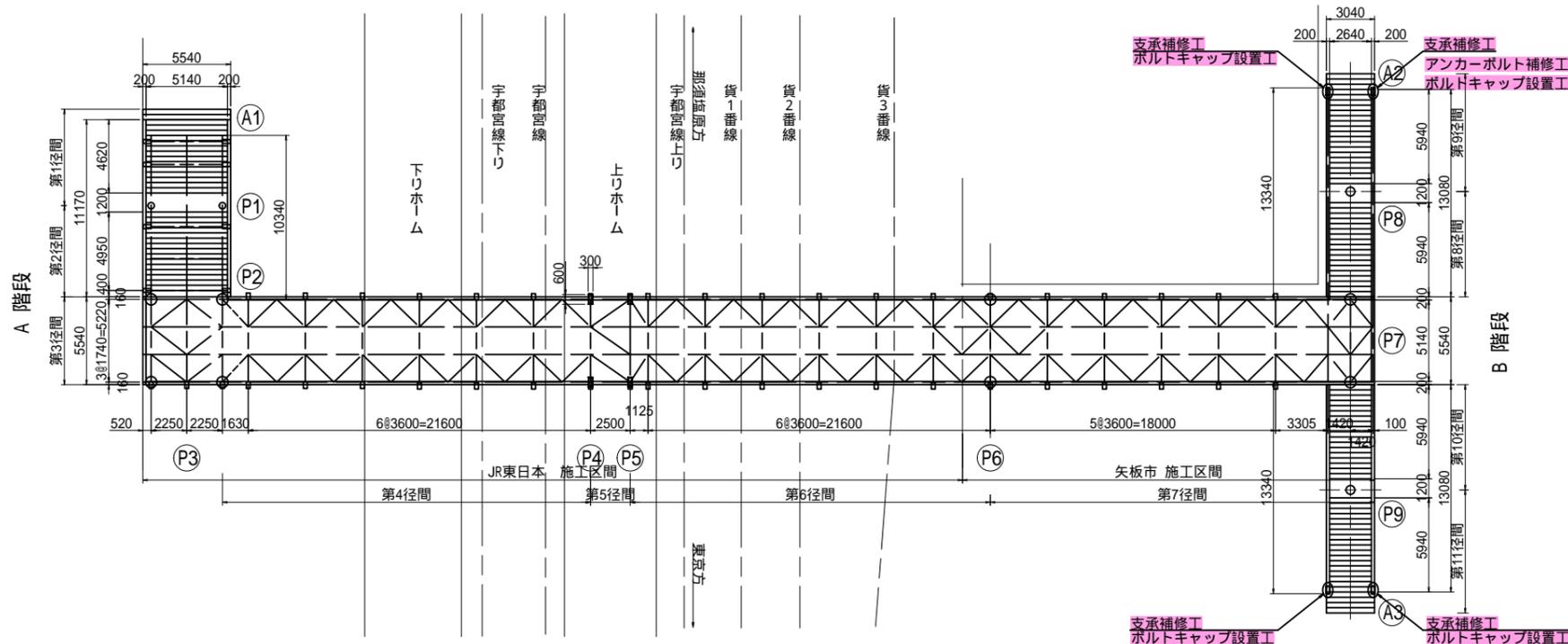
実施

工事名	橋梁補修工事(矢板駅構内跨線人道橋)) 市道扇町・末広町1号歩行者道 矢板市扇町一丁目地内		
図面名	下部工補修工図		
作成年月日			
縮尺	図示	図面番号	6 / 13
会社名			
事務所名	栃木県 矢板市役所		

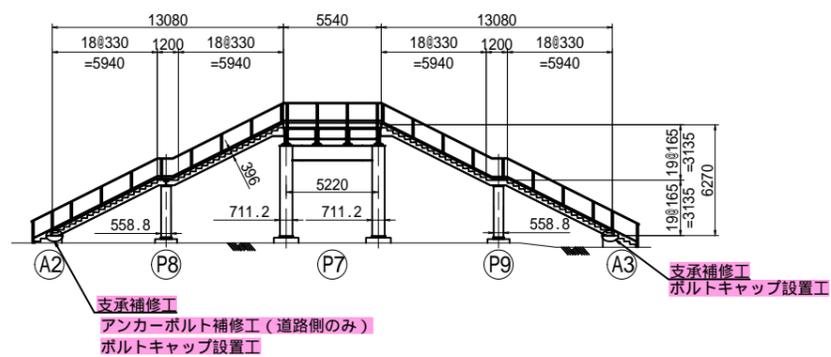
矢板駅構内跨線人道橋 支承補修工図

補修詳細図 S=1:10

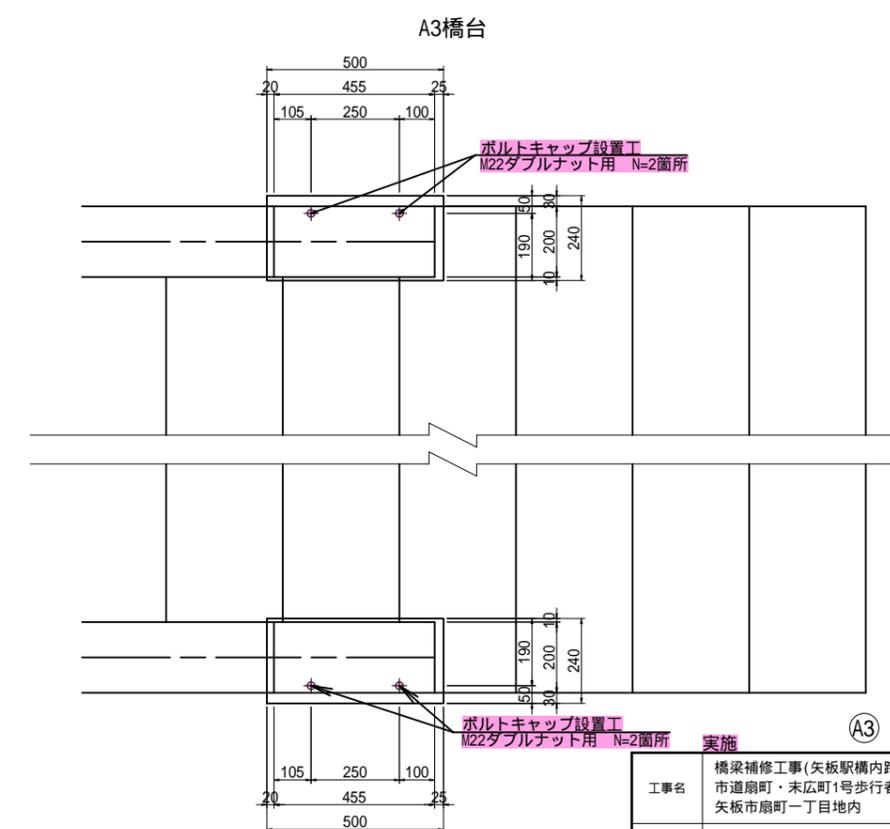
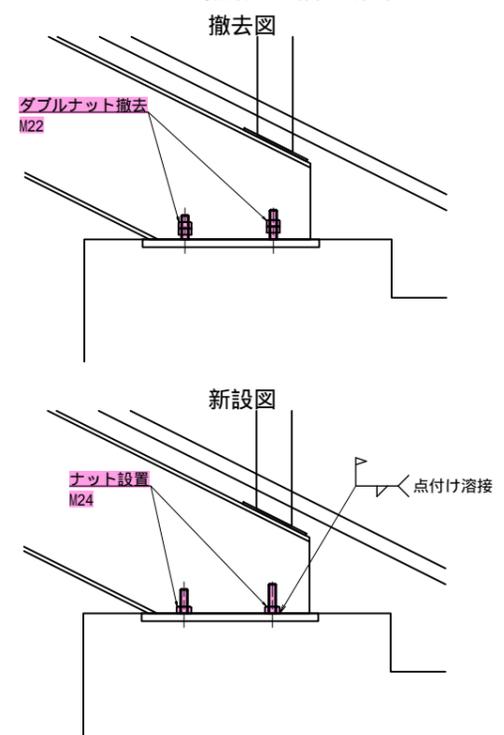
平面図 S=1:200



B 階段 S=1:200



アンカーボルト補修工詳細図 S=1:50

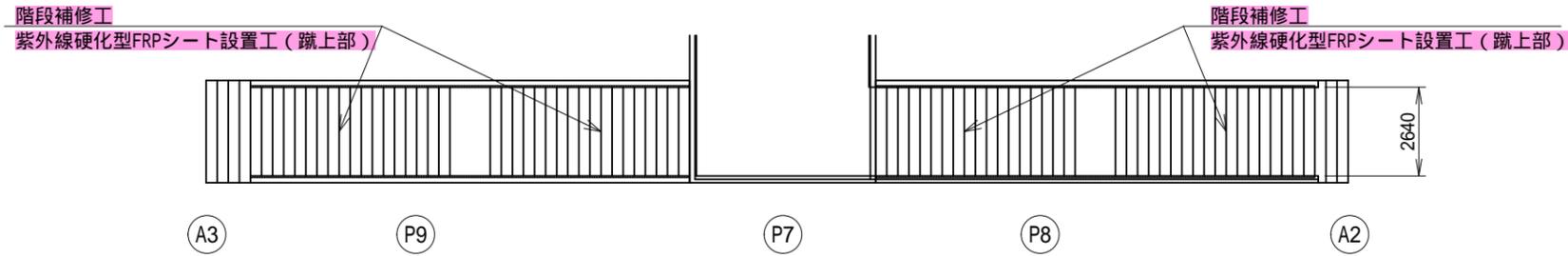


注記)
 1. この図面は「昭和53年 矢板駅構内こ線人道橋新設に伴う設計 設計図」及び現地調査、地上レーザ測量を基に作成したものである。工事の際には寸法形状を測定し、使用すること。
 2. ボルトキャップは防錆効果を期待できるもの (TSキャップ 相当品) とし、充填材を使用して取り付けること。

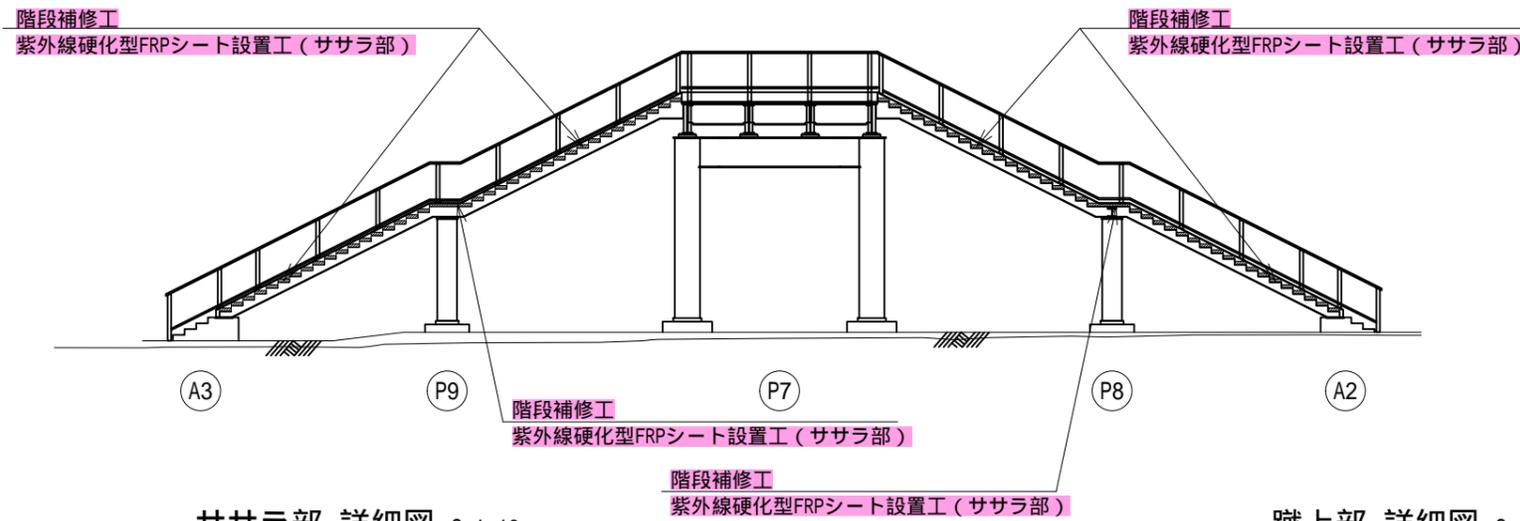
工事名	橋梁補修工事(矢板駅構内跨線人道橋) 市道扇町・末広町1号歩行者道 矢板市扇町一丁目地内		
図面名	支承補修工図		
作成年月日			
縮尺	図示	図面番号	7 / 13
会社名			
事務所名	栃木県 矢板市役所		

矢板駅構内跨線人道橋 階段補修工図(その2)

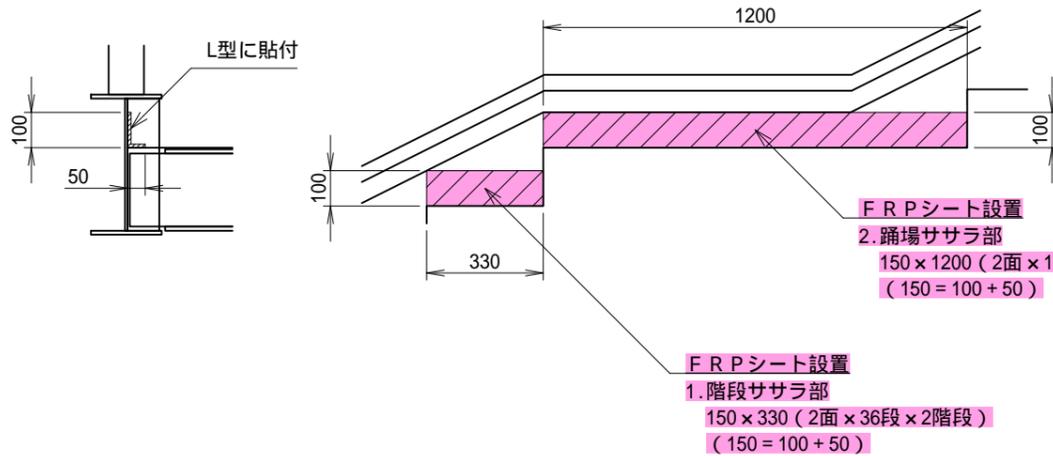
B 階段 平面図 S=1:100



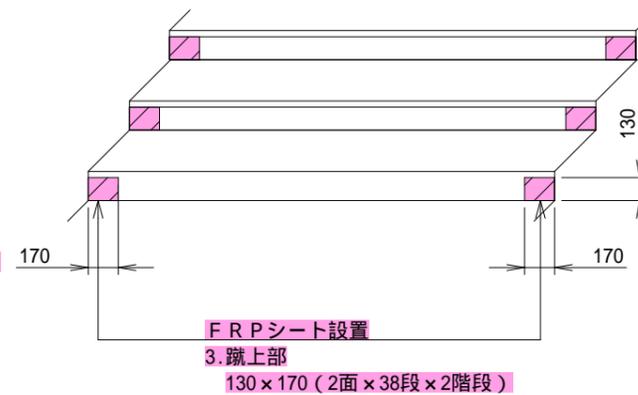
B 階段 側面図 S=1:100



ササラ部 詳細図 S=1:10
(A2側・A3側 共通)



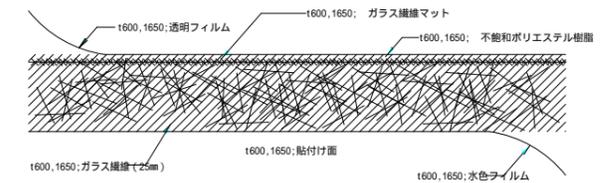
蹴上部 詳細図 S=1:20
(A2側・A3側 共通)



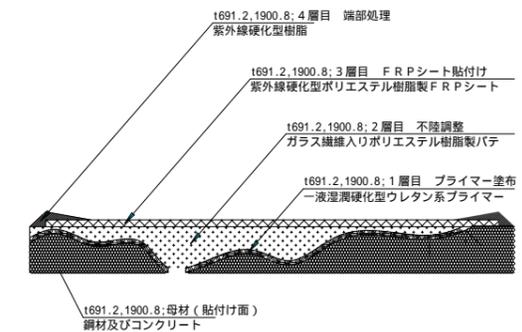
FRPシート設置 施工手順

- ケレン** t600,1650,4050; 素地調整: 2種
- プライマー塗布** kt1.71429, 4.71429; 1回目: ケレン後4時間以内
2回目: FRPシート施工前日
- 不陸調整** t600,1650; ガラス繊維入りポリエステル樹脂製パテを使用し不陸調整をおこなう
- FRPシート貼付け** t600,1650; 転圧ローラー等を用いて端部の浮がでないように貼付けをおこなう
- 端部処理** t1200,3300; 紫外線硬化型樹脂を使用し、端部及び接合部に指やスパチュラ等を用いて隙間をうめる
- FRPシート硬化** t1200,3300; 直射日光が当たらない場所は、紫外線照射装置を用いて硬化をおこなうこと
- 中塗り** t600,1650; 弱溶剤型ふっ素樹脂塗料用中塗
- 上塗り** t600,1650; 弱溶剤型ふっ素樹脂塗料上塗

FRPシート断面図



FRPシート設置 施工フロー図



FRPシート仕様要求項目

NETIS NO.旧 CB-990022-V同等品以上のポリエステル樹脂製
(土木コスト情報: 標準単価適用のため)
難燃性UL94規格: V-0以上
(道路構造令の解説と運用 防災空間としての道路構造)
酸素透過率: $10^{-11} \leq 6.5cc / (m^2 \cdot 24h \cdot atm)$ 以下
(鋼道防食便覧)

注記)
1. この図面は「昭和53年 矢板駅構内跨線人道橋新設に伴う設計 設計図」及び現地調査、地上レザ測量を基に作成したものである。工事の際には寸法形状を測定し、使用すること。

工事名	橋梁補修工事(矢板駅構内跨線人道橋) 市道扇町・末広町1号歩行者道 矢板市扇町一丁目地内		
図面名	階段補修工図(その2)		
作成年月日			
縮尺	図示	図面番号	8 / 13
会社名			
事務所名	栃木県 矢板市役所		

矢板駅構内跨線人道橋 排水装置補修工図

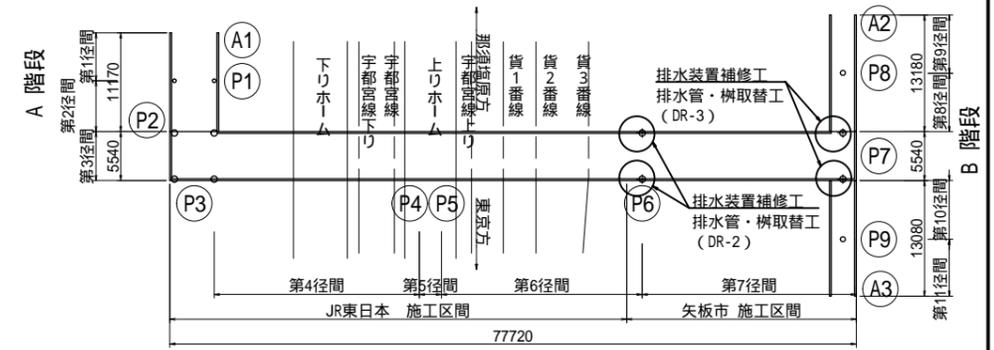
位置図 S=1:400

新設図 S=1:30

撤去図 S=1:30
DR-2(DR-3)

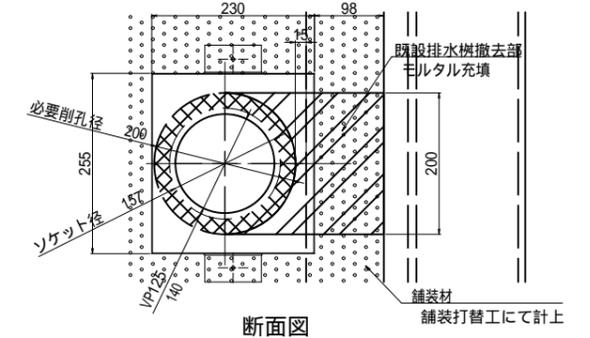
DR-2
平面図

DR-3
平面図

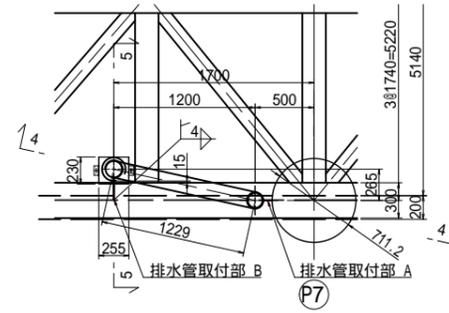
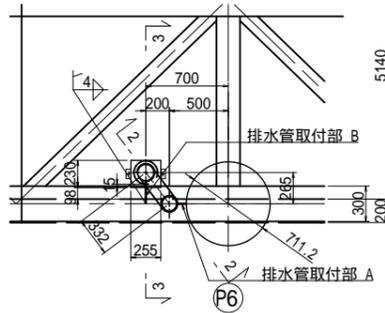
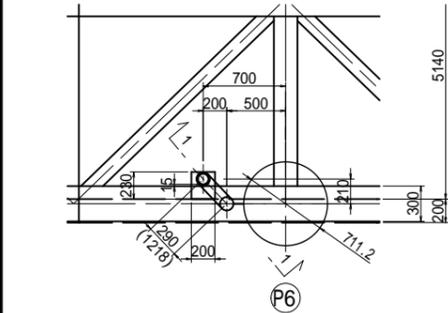
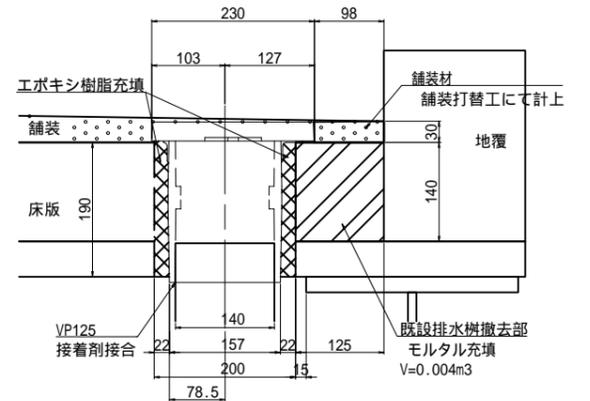


"a"部詳細図 S=1:5

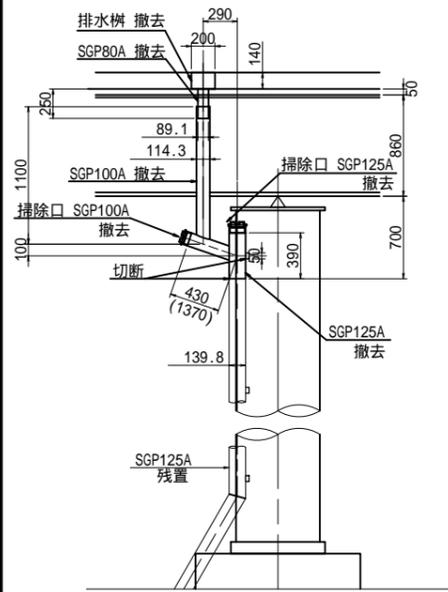
平面図



断面図



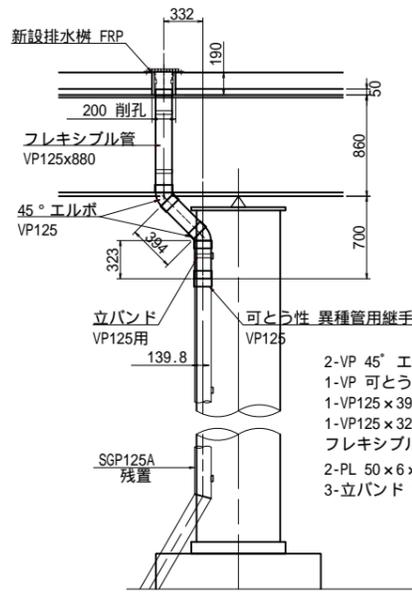
1-1 正面図



P6 (P7)

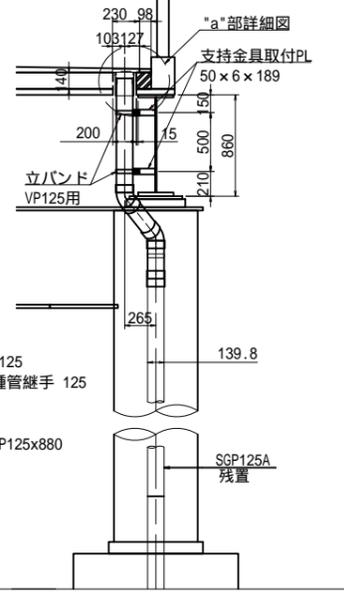
()内の寸法はDR-3を示す。

2-2 正面図



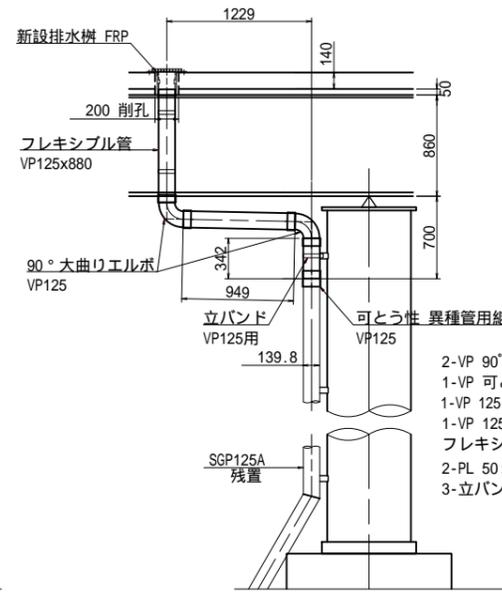
P6

3-3 断面図



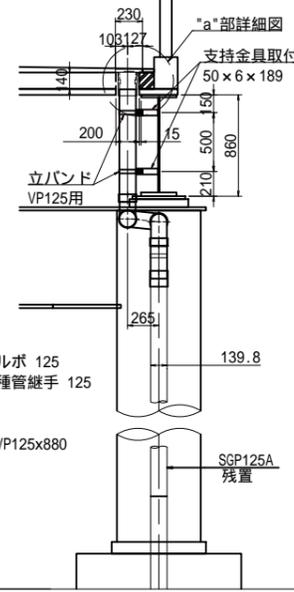
P6

4-4 正面図



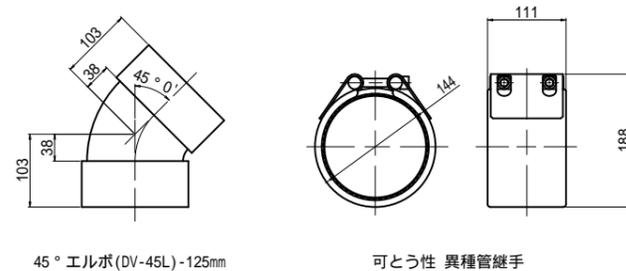
P7

5-5 断面図

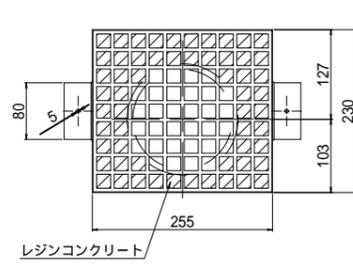


P7

排水管継手詳細図 S=1:5



排水樹 詳細図 S=1:5

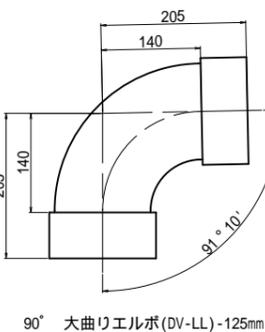


排水装置補修工(撤去) 数量表

場所	種類	延長	個数	単位	数量	摘要
第7径間	SGP80A	0.25	4	m	1.00	DR-2,3
	SGP100A	1.53	2	m	3.06	DR-2
	"	2.47	2	m	4.94	DR-3
	SGP125A	0.39	4	m	1.56	DR-2,3
	掃除口 SGP100A	-	4	個	4	"
	掃除口 SGP125A	-	4	個	4	"
	排水樹(鋼製)	-	4	個	4	"

排水装置補修工(新設) 数量表

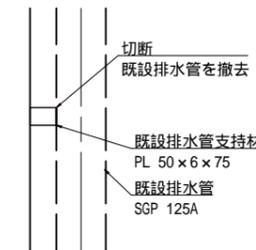
場所	種類	延長	個数	単位	数量	摘要
第7径間	VP 125 直管	0.39	2	m	0.78	DR-2
	"	0.32	2	m	0.64	"
	"	0.95	2	m	1.90	DR-3
	"	0.34	2	m	0.68	"
	フレキシブル管	0.88	4	m	3.52	"
	排水樹(FRP製)	-	4	個	4	"
	45°エルボ VP125	-	4	個	4	DR-2
	90°大曲りエルボ VP125	-	4	個	4	DR-3
	可とう性異種管継手	-	4	個	4	DR-2,3
	立バンド VP125用	-	12	個	12	"
	支持金具PL	-	8	枚	8	"



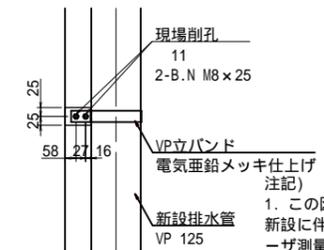
排水管取付部詳細図 S=1:10

排水管取付部 A

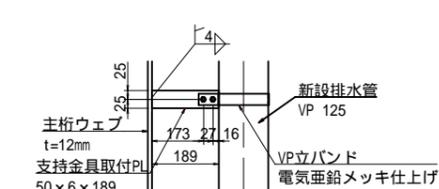
撤去時



取付時



排水管取付部 B



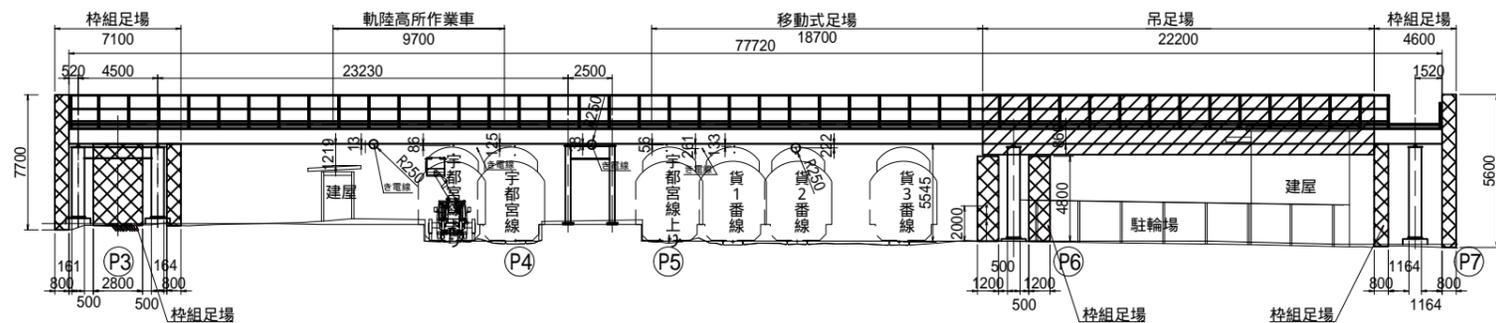
1. この図面は「昭和53年 矢板駅構内跨線人道橋 新設に伴う設計 設計図」及び現地調査、地上レザ測量を基に作成したものである。工事の際には寸法形状を測定し、使用すること。

実施

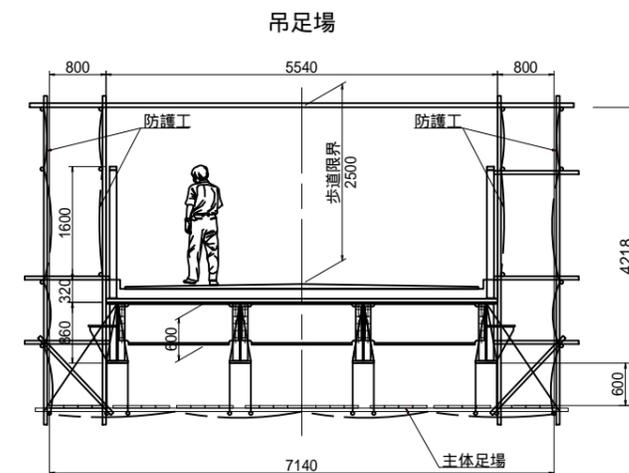
工事名	橋梁補修工事(矢板駅構内跨線人道橋)		
	市道扇町・末広町1号歩行者道		
	矢板市扇町一丁目地内		
図面名	排水装置補修工図		
作成年月日			
縮尺	図示	図面番号	9 / 13
会社名			
事務所名	栃木県 矢板市役所		

矢板駅構内跨線人道橋 足場計画図

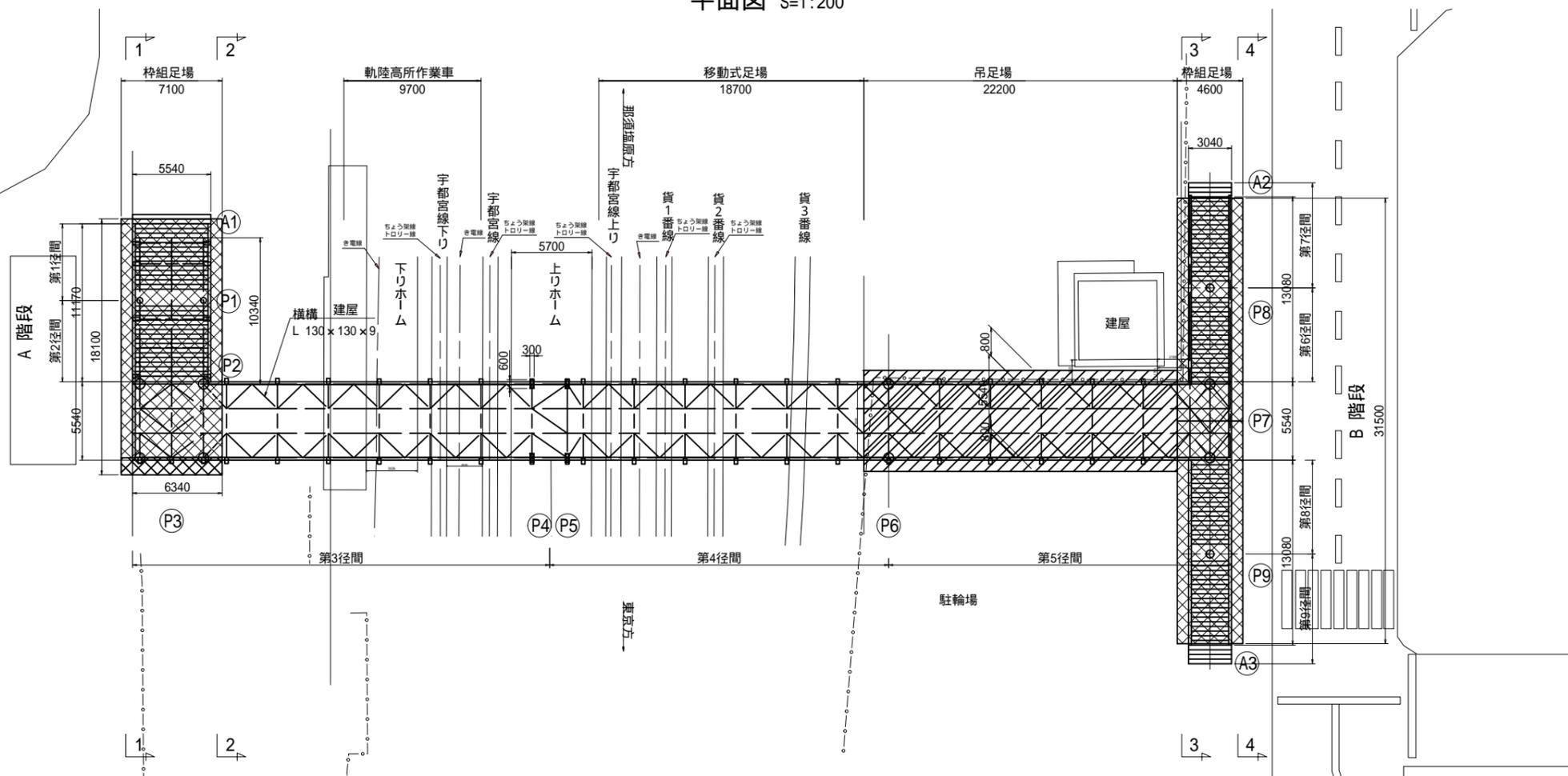
側面図 S=1:200



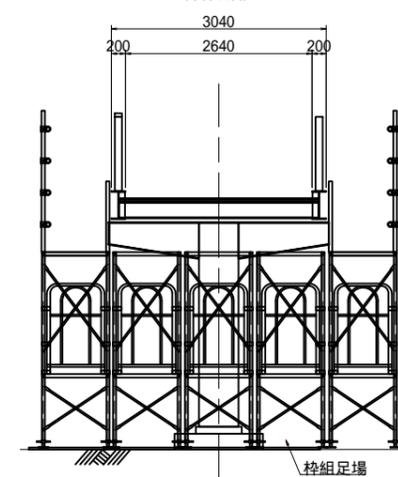
断面図 S=1:50



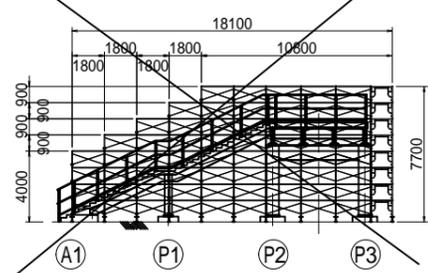
平面図 S=1:200



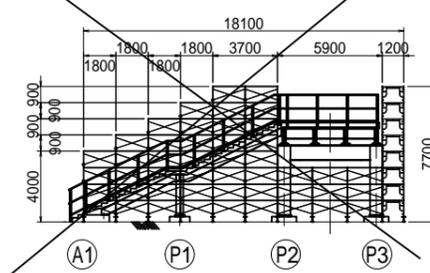
階段部



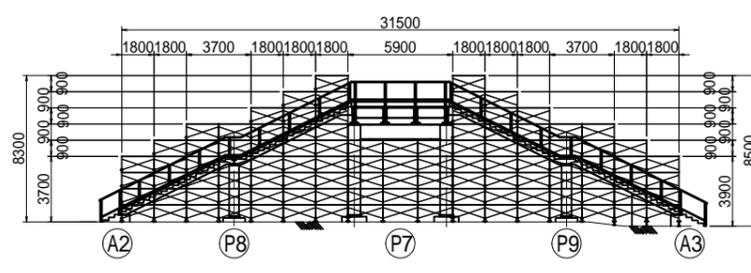
1-1階段側面図 S=1:200



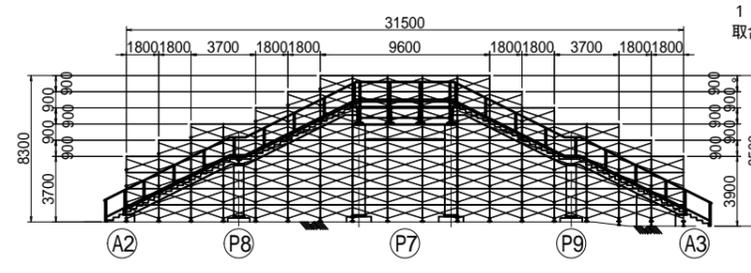
2-2階段側面図 S=1:200



3-3階段側面図 S=1:200



4-4階段側面図 S=1:200

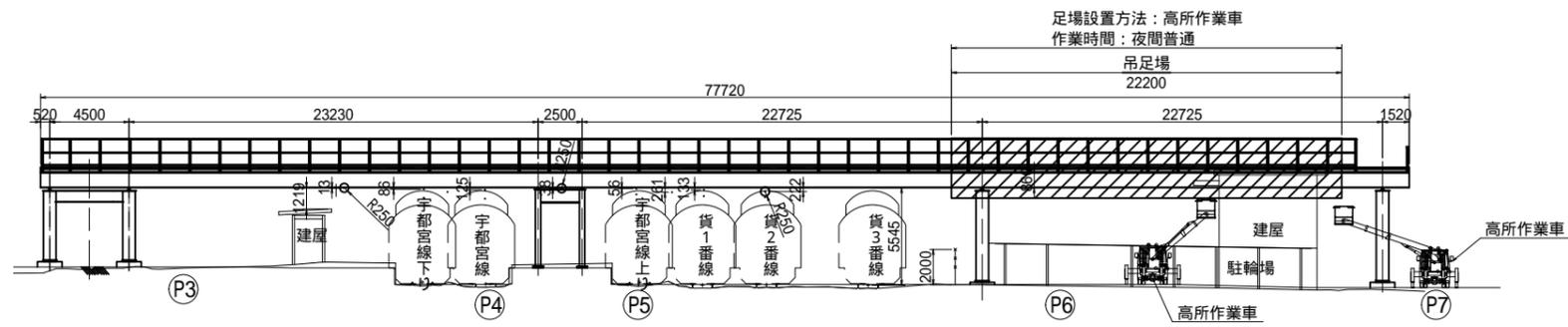


注記)
1. 現地計測の上、制作・架設を行うこと。実測値で取合いを照査し、必要に応じて詳細図を修正すること

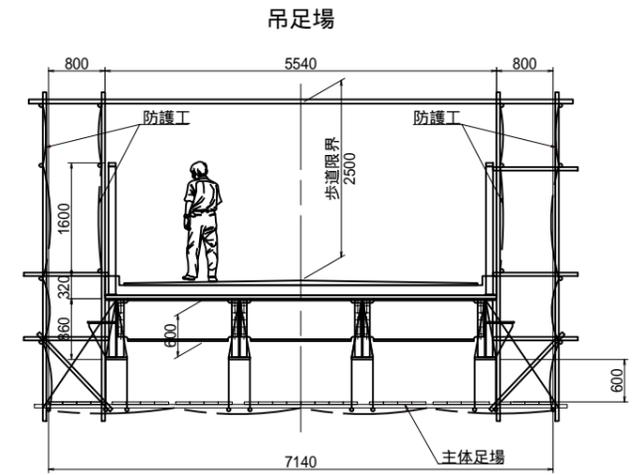
参考図			
工事名	橋梁補修工事(矢板駅構内跨線人道橋)		
市道扇町・末広町1号歩行者道			
矢板市扇町一丁目地内			
図面名	足場計画図		
作成年月日			
縮尺	図示	図面番号	10 / 13
会社名			
事務所名	栃木県 矢板市役所		

矢板駅構内跨線人道橋 吊足場施工状況図

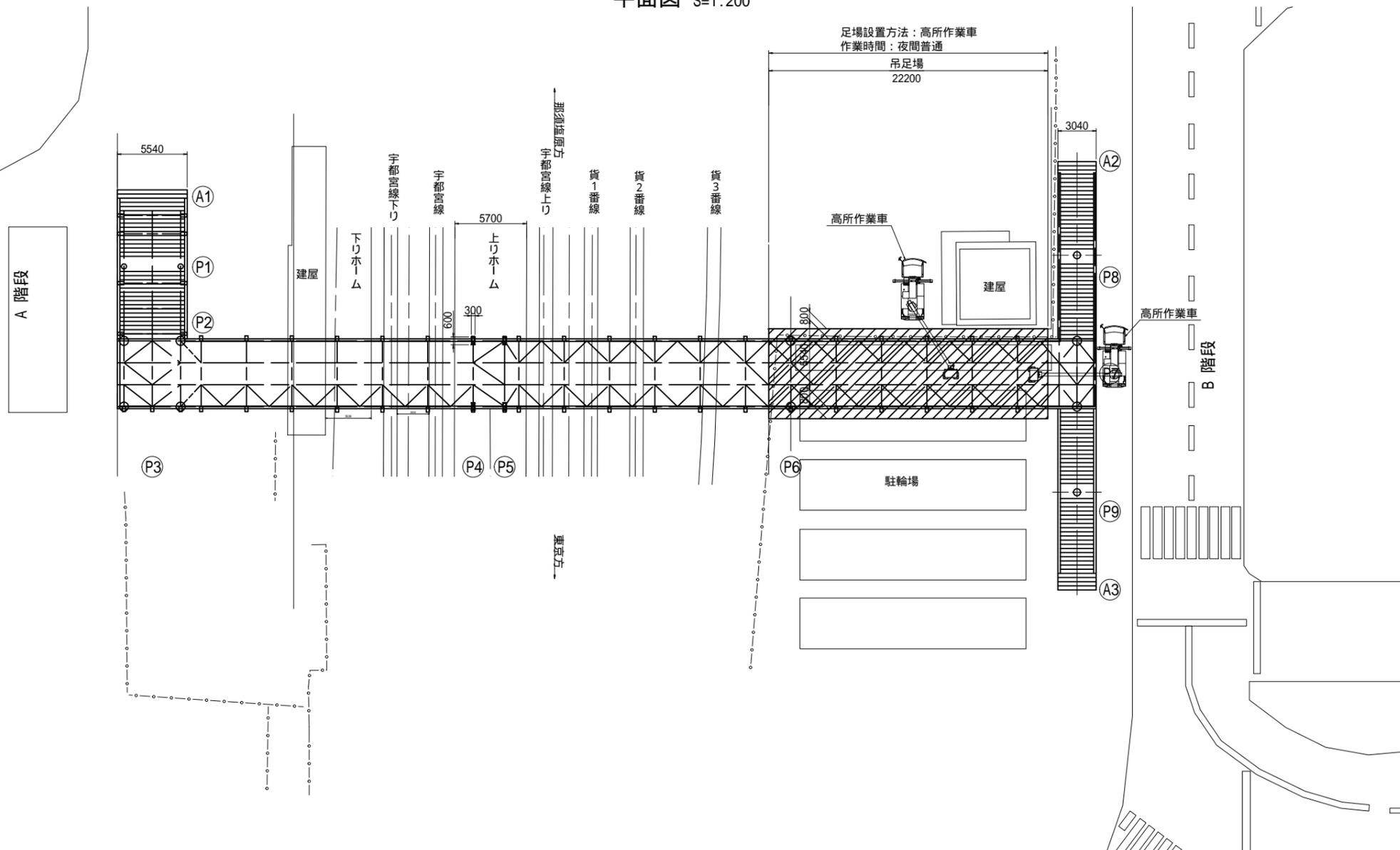
側面図 S=1:200



断面図 S=1:50



平面図 S=1:200



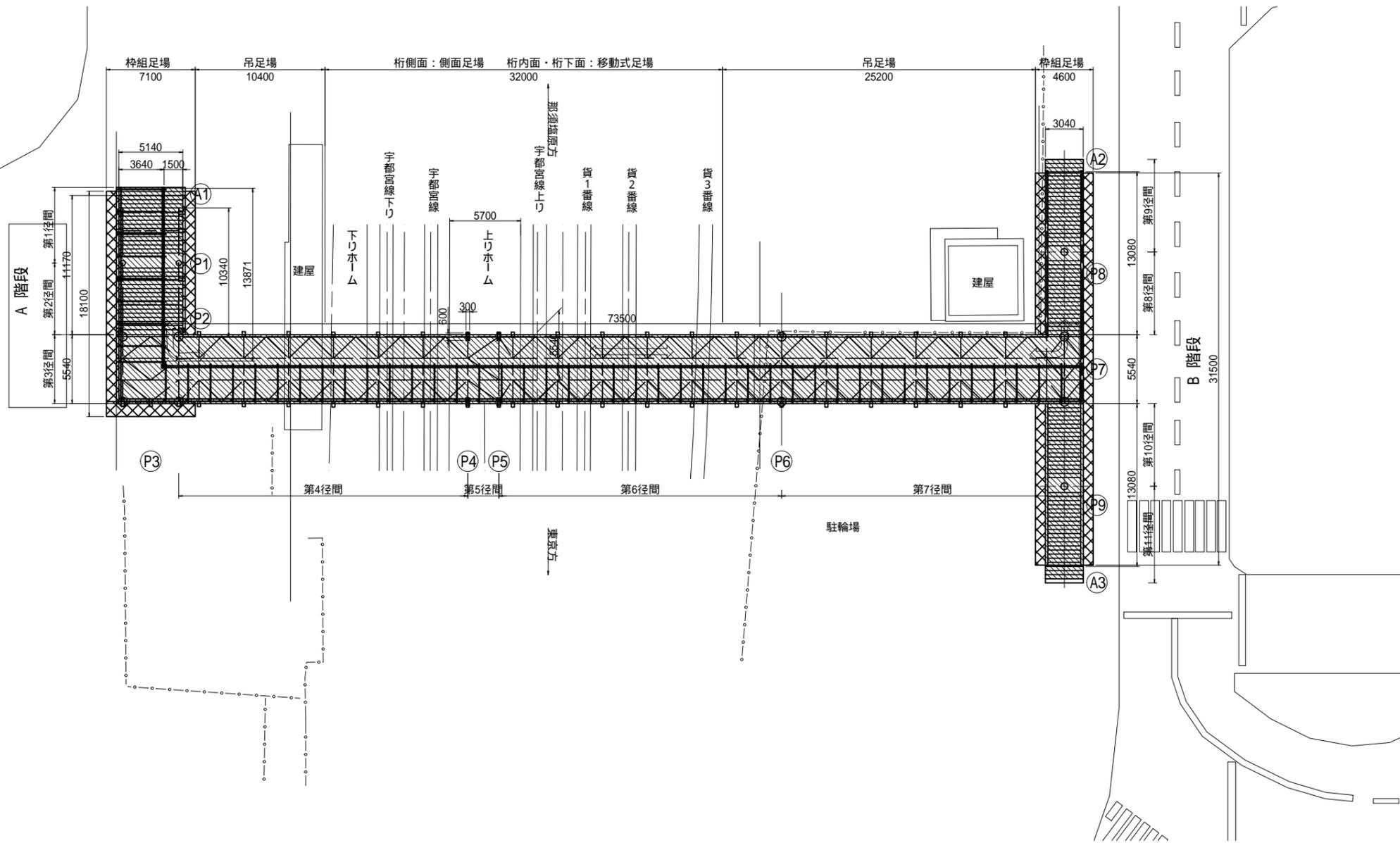
参考図

工事名	橋梁補修工事(矢板駅構内跨線人道橋)		
	市道扇町・末広町1号歩行者道		
	矢板市扇町一丁目地内		
図面名	吊足場施工状況図		
作成年月日			
縮尺	図示	図面番号	11 / 13
会社名			
事務所名	栃木県 矢板市役所		

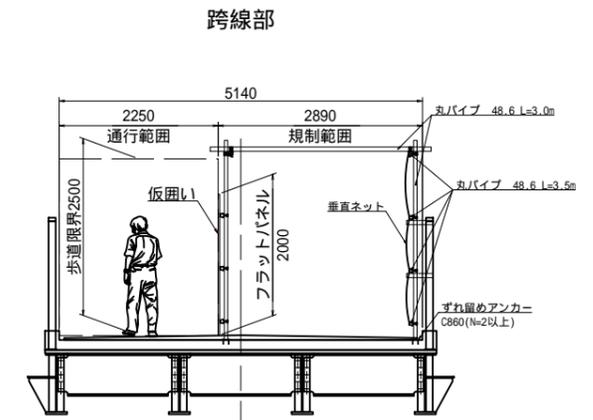
注記)
1. 現地計測の上、制作・架設を行うこと。実測値で取合いを照査し、必要に応じて詳細図を修正すること。

矢板駅構内跨線人道橋 通行規制計画図 (その1)

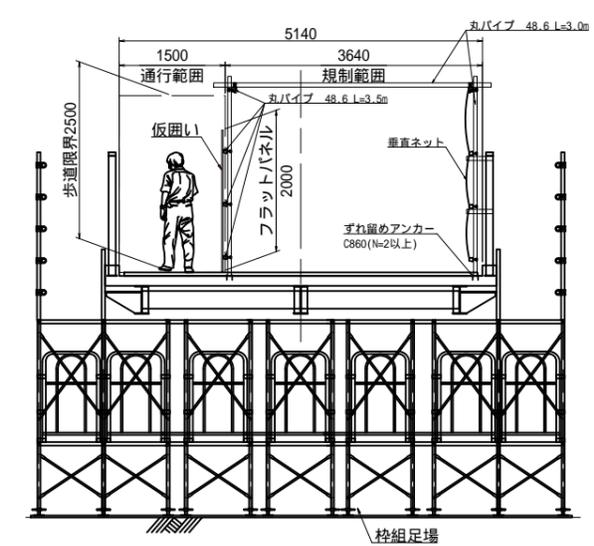
平面図 S=1:200



断面図 S=1:50



A階段部



凡例

	通行範囲
	規制範囲

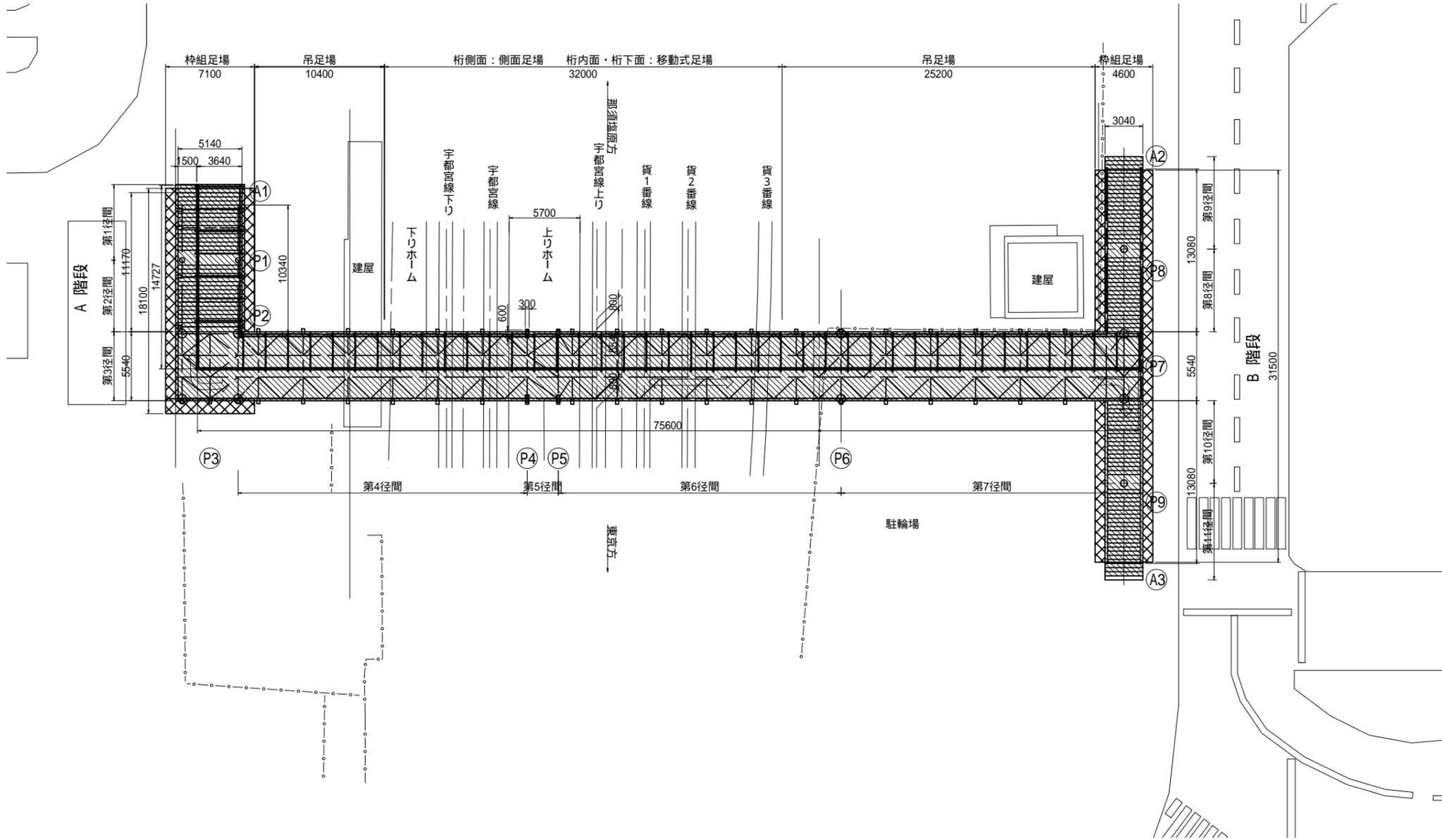
参考図

工事名	橋梁補修工事(矢板駅構内跨線人道橋) 市道扇町・末広町1号歩行者道 矢板市扇町一丁目地内		
図面名	通行規制計画図(その1)		
作成年月日			
縮尺	図示	図面番号	12 / 13
会社名			
事務所名	栃木県 矢板市役所		

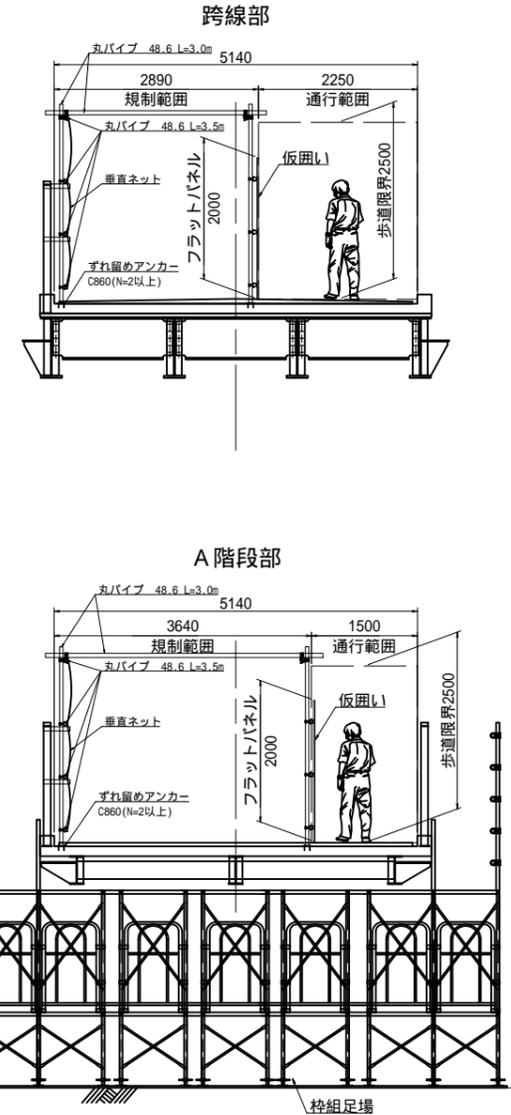
注記)
 1. 現地計測の上、制作・架設を行うこと。実測値で取合いを照査し、必要に応じて詳細図を修正すること。
 2. 仮囲い支柱基部のアンカー撤去後は、樹脂モルタル・パテ等で補修を行うこと。

矢板駅構内跨線人道橋 通行規制計画図 (その2)

平面図 S=1:200



断面図 S=1:50



凡例	
	通行範囲
	規制範囲

参考図			
工事名	橋梁補修工事(矢板駅構内跨線人道橋) 市道扇町・未広町1号歩行者道 矢板市扇町一丁目地内		
図面名	通行規制計画図(その2)		
作成年月日			
縮尺	図示	図面番号	13 / 13
会社名			
事務所名	栃木県 矢板市役所		

- 注記)
- 現地計測の上、制作・架設を行うこと。実測値で取合いを照査し、必要に応じて詳細図を修正すること。
 - 仮囲い支柱基部のアンカー撤去後は、樹脂モルタル・パテ等で補修を行うこと。